

ランナー 回想録

回想録を寄稿して頂いたランナーの皆さん

ゼッケンNo.	氏 名	住 所	ゼッケンNo.	氏 名	住 所
1	秋山 茂則	岡山県	54	竹本 晋一	東京都
2	安孫子 亮	神奈川県	56	舘坂 秀明	石川県
3	池田 和義	群馬県	57	舘野 久之	神奈川県
4	石田 誠	岐阜県	59	田中 勝	大阪府
5	市川 歩	大阪府	60	寺本 誠	石川県
6	伊藤 知子	静岡県	61	仲井 康博	京都府
7	井原 貴正	愛知県	65	中田 和彦	兵庫県
10	上島 学	奈良県	66	中西 友紀	愛知県
11	上田 昌輝	広島県	68	西川 昌志	岐阜県
12	内田 優子	岐阜県	69	丹羽 一幸	愛知県
13	内田 芳朗	山口県	70	波多野 明翠	愛知県
15	遠藤 賢児	岐阜県	71	服部 隆充	愛知県
16	大川 紀夫	東京都	72	馬場 宏	大阪府
17	大島 雄治	富山県	73	早坂 研	宮城県
18	太田 哲也	東京都	74	日置 和徳	岐阜県
19	大橋 一夫	愛知県	76	久一 清志	大阪府
20	大平 美佳	愛知県	77	平 涼一	千葉県
21	岡 正敬	岐阜県	78	平野 茂	静岡県
24	小川 幸雄	岐阜県	81	藤田 宣嗣	三重県
25	小倉 修平	埼玉県	82	伏見 和也	岐阜県
26	尾崎 陽一	大分県	83	真島 一成	愛知県
28	柿崎 美恵子	千葉県	84	松下 剛大	東京都
29	加藤 千代子	愛知県	86	松本 貴宏	富山県
30	加納 裕美子	愛知県	87	水谷 貞夫	岐阜県
31	亀田 昌邦	大阪府	88	水谷 正治	愛知県
34	黒木 良一	広島県	89	村上 泰広	愛知県
35	黒田 俊幸	愛知県	90	村松 義剛	愛知県
37	河内 勇人	愛媛県	91	本木 伸幸	愛知県
38	越田 信	愛知県	92	矢上 貴夫	岐阜県
39	小島 良三	愛知県	95	山崎 徹	富山県
40	小谷 康浩	愛媛県	96	山本 貫太郎	兵庫県
41	後藤 健治	岐阜県	98	吉川 宏司	愛知県
42	柴田 幸稔	愛知県	99	渡辺 寿己	岐阜県
44	杉下 博一	北海道	100	渡辺 正樹	鹿児島県
45	鈴木 琴美	千葉県			
46	角 和幸	鹿児島県			
48	高島 伸介	大阪府			
49	高田 美由紀	奈良県			
50	高橋 伸幸	神奈川県			
51	高橋 裕子	東京都			
52	竹尾 利行	愛知県			
53	竹田 賢治	栃木県			

2024さくら道国際ネイチャーラン～ THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン番号 1

氏名 秋山茂則

「さくら道がすべて～すべてはさくら道から」

ラストさくら道国際ネイチャーランありがとうございました。

2014年から連続8回走らせて頂き感動の連続でした。わたしにとってこの10年はすべてさくら道に繋がっていたといっても過言では無いほど人生の大きなウェイトを占めていました。

なぜか？そこには普段の生活からかけ離れた不思議なパワーが溢れていました。ランナーは全国からこの大会のために地道な努力の日々を続けて集まって来ます。年齢、性別、職業、経歴、地位、性格が様々な人たちが一つの目的に向かい突き進み苦楽を共にするわけです。

短い時間でゴールする人、制限時間に何とか入る人、時間内にゴール出来なかった人、途中関門を通過出来なかった人、どなたもこの大会に参加出来たことを喜んでいます。それはこの大会が持つ他の大会には無い圧倒的な魅力があるからです。その根底には佐藤良二さんというヒーローが作った伝説があることに他なりません。

その意思をウルトラマラソンに重ね合わせ我々ランナーに夢を与えて頂いているのです。白鳥町のスタッフの皆様によりこの大会が行われていたというのも他にはない画期的な催しだったと思います。今年で最後となりましたが、私たちランナーは目的を失い大きなショックでした。しかし、一番辛い思いをされたのは白鳥町で一生懸命に運営をされていたスタッフの皆様ではないでしょうか？

一つの時代が終わった感じがしますが、私たちさくら道ランナーの心にはこの由緒ある大会がいつまでもでもいつまでも残っていくと思います。関係者の皆様、ボランティアされた皆様、参加されたランナーの皆様、どちら様も良い思い出を作って頂きここから感謝いたします。皆様の心にもいつまでも残る伝説の物語でありますこととお祈りいたします。

いちごオ・レ もへい

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 2 氏名 安孫子 亮

「最後だからこそ 250km にして欲しかった」

これがスタートするまでの思いでした。

110km だから参加してみようと決断した方もいる。

特に地元岐阜のランナーで、今までさくら道を支え続けてくれた方が走れたのなら、今回は110km でむしろよかった。

今までコースの後半のエイドでサポートしてくれた方々が、今回は前半に場所を移してのサポート。苦しい顔を見せてしまっていた方に、今回は笑顔で走る姿を見てもらうことができた。これも110km のコース設定だったからできたこと。

今までは少人数でしみじみと喜びを噛み締めながらのゴールシーン。

今回は賑やかなゴールシーン。既にゴールしたランナーもゴール地点に残ってお出迎え。一人一人に MC 内記さんの選手紹介にインタビュー、これも110km だったからできたこと。これまでのさくら道で選手やスタッフの間に繋がりが育まれていて一体感があったから自然と盛り上がった。

スタッフの皆様が本気で完走をサポートしてくれたので、多大な労力が必要だったと思います。30 年間、本当にありがとうございました。

スタッフさんの負担を減らし、選手側でももう少し負担したり、250km という形じゃないところからでもいい、さくら道の復活を切に願います!!



2024さくら道国際ネイチャーラン回想録 (ラストランを終えて)

No.3 池田和義

2024さくら道国際ネイチャーランのラストランを終えて、ゴール T. O. という結果でしたが、最後の大会を走れてほっとしている反面、来年からは開催されないという寂しい気持ちです。

まずは「さくら道国際ネイチャーラン」を30年間(28回)開催して頂き、大会関係者の皆様をはじめ、本大会を長きにわたり支えて頂いたスタッフ、ボランティアの皆様に、厚く御礼申し上げます、有難うございました。

さて、1997年の第4回大会が初参加でしたが、今回の大会まで、コロナ禍での中止を除いて毎回出場する機会を頂きました。これまでの大会の中では、36時間雨が降り続く中で1分前にゴールしたこともありました。また、夜に雪となり莊川桜から80キロも積雪の中を走ったこともありました。2016年の強風の大会では、大鋸屋で大会中止の知らせを聞きました。そんな大会の中でも特に印象に残っているのは、2004年のライトアップされた満開の莊川と雪との競演でした。とても幻想的で一生の思い出になっています。

閉会式最後の挨拶で、大森さんが持続可能な運営システムへの改善と大会再開の可能性についてお話されていました。自分も「さくら道国際ネイチャーラン」が再び開催されることを切に願っています。

最後になりますが、貴重な経験と良い思い出、大切な人との繋がりを与えてくれた「さくら道国際ネイチャーラン」を走ることができて幸せでした。

ありがとう！「さくら道国際ネイチャーラン！！」

2024年4月26日

はじめに

「さくら道」の4ヶ月前、私は、結婚したばかりの息子を亡くし失意のどん底にいました。こんな状態で走れるのか迷った末、もがいていても何も変わらないと応募したところ、ありがたいことに、憧れの「さくら道」に初挑戦する機会をいただきました。

その後も怪我、持病の悪化や不安から出場辞退を考えたが、ランナー仲間の後藤健治さんの助言でスタートラインに立てました。走っている途中で苦しくなった時は西村健一さんの施術で立ち直ることができました。

トンネル内で息子の名を叫ぶと不思議と力が出て何とか、妻や仲間の待つ郡上まで走ることができました。



「さくら道」はランナーの聖地

佐藤良二さんの「蘇った桜の生命力」「貧しくも心豊かな生き方」「さくらのトンネル」「志半ばで散った夢」など、多くの人を魅了するドラマのステージが「さくら道」です。「さくら道」は、距離や困難さがランナーの心を揺さぶるだけでなく、佐藤良二さんのような純粋な心で自分の力を試し、自分らしさを表現できるステージとして、世界の長距離ランナーが憧れる聖地だと私は思っています。

そんな聖地を走る「選ばれしランナー」に効率的に声をかけようと、私は今まで白鳥町から逆走し、出会ったランナーの笑顔にいつもエネルギーをもらってきました。

また、佐藤さんの「人の喜ぶことをしたい」という生き方に感銘し、さくら道周辺のゴミを拾いながらのランニングを日課にしました。

68歳でのさくら道初挑戦は、歳を取りすぎた感はあるものの、逆走でなくみんなと同じ方向へゼッケンを付けて走れることは、私にとって夢実現の至福の時間でした。

チーム「さくら道」の一体感

今回、ランナーとして参加し、どのランナーも互いに敬意をもって接し、生き立ちや日々の生活の中で培ったぶれない生き方と同一の志をもったさくら道ランナーは、心の許し合える同志であることがわかりました。

「自分に厳しく、自らやって魅せる」という生き方に裏打ちされた個性的なライフスタイルをもった同志が、同一のゴール(目標)をめざす時、言葉が無くてもその背中や仕草に励まされ、辛い中にも、心地よい一体感を強く感じ、走り続けることができました。

ランナー、スタッフ、ボランティア、沿道の応援の皆さん、ありがとうございました。

終わりに

佐藤良二さんが蒔いたのは桜の種だけではありません。全国各地で、色々な形の「人の喜ぶことをしたい」が芽を吹き、開花し、佐藤さんが願った「誰もが幸せ(平和)に暮らせる世」が形になることを願っています。

また、いつの日か自力走とリレー方式の融合など、実行委員会やエイドの負担がない、志ある個人もチームも参加できる新しい形の「さくら道」が検討され、再び聖地に多くのランナーが集える日がくることを願っています。佐藤良二さんありがとう！



スポーツ郡上

令和6年度 号外
郡上市スポーツ協会

石田理事長 100kmを走り切る！

最初で最後の「さくら道」

問いから答えまでの時間が短い昨今。ひたすら右脚と左脚を交互に動かし、途方もない先のゴールをめざす中で、自分探しの時間を過ごし、未見の我と出会えたことが、初挑戦の私が感じた「さくら道」の魅力です。

スタート直後の集団の意識は、「群れ」でした。次第に同じペースで走る者が「つれ」となり、ゼッケンの名前を頼りに声をかけ、会話を通して心を通わす「仲間」になるまでにそんなに時間はかかりませんでした。地下足袋や笠をかぶって走るランナーなど、人までねなく経験に裏打ちされた確固たる信念で自分らしさを追求し、ブレのない超個性的な超人集団。なれ合いでなく、あえて厳しさを求めるランナーに、最後は「仲間」を超えた「同志」を感じ、心地よいカルチャーショックとこれからの自分に生きるエネルギーをいただきました。

「さくら道」に関わった全てのみなさん。「ありがとう！」



名古屋から金沢までの250kmを走る。そんな超人的なウルトラマラソン「さくら道国際ネーチャーラン」が19～21日、名古屋～郡上のハーフ110Kmのレースを催し、30年の歴史に幕を下ろした。

花を見て人々が喜び、心が一つになることを願って名古屋～金沢に桜を植えた佐藤良二さん（1929～77年）の物語が原点であり、他の大会との違いだった。世界のウルトラマラソン10傑として海外の書籍に載ったこともあった。

夜を徹して補給所に立つボランティア。安全管理でコースを走り回るスタッフ。サポートに感謝を伝えながら走るランナー。関わる全ての人に、黙々と桜を植えた佐藤さんのハートが宿っていた。見えないたすきをつないでいた。



大きな事故なく、続けられたこと自体が奇跡。さくら道ランの物語もまた、永遠に色あせない。

（4/22 中日新聞 「せせらぎ」より 郡上八幡通信局・山本 真士）

2024 さくら道国際ネイチャーラン

～THE LAST RUN～

回想録 ゼッケン No. 5 市川 歩

いつか出場できれば良いなと思っていたのがさくら道ネイチャーランでした。

しかし、今の實力では250キロなんて到底完走はできない状況でした。そんななか、今回が最後の大会で、さらに、ハーフ開催になるということを知り、すぐに応募を決めました。また、今回が30回目の大会で自分の年齢と同じということにも、とてもご縁を感じておりました。

無事、選考通過の連絡をいただき、思った以上に早く、憧れのスタート地点に立つことができました。出場が決まってから大会の日を迎えるまで、緊張と不安でいっぱいでした。

多くの超ウルトラマラソンを完走してきたランナーの方々ばかりで、経験も實力も足りていない私は肩身が狭い思いでしたが、それ以上に憧れの方々と一緒にさくら道を走れることを大変嬉しく思いました。アドバイスも沢山いただきました。先輩ランナーの皆様ありがとうございました。

道中はランナーの方々とお話をしながら並走したり、ボランティアの方や沿道の方に温かい応援の言葉をいただいたことで、楽しく気持ち良く、ゴールまで走り切ることができました。

運営の方々、ボランティアの方々、ランナーの方々、沿道の方々に大変感謝いたします。

みなさまのおかげで貴重な経験ができました。

この経験を糧に、これからもウルトラマラソンを楽しみたいと思います。

本当にありがとうございました！！

30年という長い間、このような素晴らしい大会を続けていただきまして本当にありがとうございました。
今回で最後になってしまうことは、とても悲しいですが時代の流れに伴う様々な変化を考えれば仕方のないことなのかなと感じております。

100km サブ10を達成したら申し込みをしようと決めていた目標であり特別な大会
30年以上も前の高校の修学旅行で御母衣ダムや白川郷に行ったことに勝手に縁を感じ
佐藤良二さんのことを知ったことがさくら道国際ネイチャーランを走りたいと思ったきっかけでした。
2016～2018年、3回走るチャンスをいただき、他の大会では得ることのできない
充実感・満足感、そして人として成長させてくれる素晴らしい場であり、日常の練習の目標となる
大切な大会となりました。

2018年の大会で熱中症になり御母衣電力館にてリタイヤして自分の弱さを痛感、
リタイヤしたことを後悔し長きにわたりその気持ちを引きずり…
6年ぶりで不安や緊張がありましたが、今回走らせていただいたことで改めて大会の素晴らしさを
実感したとともに2018年で止まってしまっていた心の時計を動かし始めることができました。

名古屋市街地の長～い信号待ちも、季節外れの暑さも、距離を重ねるごとに増す疲労も
嫌とは思わず、今走っているこの瞬間に味わえているなんて幸せ！と感じ夢のような道中でした。
大会運営に携わっていただきました関係者の皆様、一緒にさせていただきましたランナーの皆様
応援いただきましたすべての皆様、たくさんのサポートとお心遣いをいただき
気持ちよく走り完走できましたこと心より感謝申し上げます。

今後、形は変わっても佐藤良二さんの遺志を引き継いで夢を叶えるお手伝いを
私なりにしていけたらと思っております。



2024 年さくら道国際ネイチャーラン回想録

ゼッケン No. 7 氏名井原貴正

最後のさくら道参加出来て良かったです。

長い距離練習してなく心配だったでも、どうしても参加したかったです。

大会当日嬉しくて調子よく速く走り過ぎてしまいました。

後はペースが落ちてなかなか走れなく歩きました。

14 エード 72 k でリタイヤしました。

でも、参加出来て良かったです。

2008 年、2009 年、2018 年と 250 k 3 回完走しています。凄く嬉しくて感動が残ってます。

走っている時苦しくてもエード楽しんだりしました。

植樹そして閉会式、立食パーティーも楽しみました。

ボランティアの皆様

事務局の皆様

応援ありがとうございました。

選手の皆様一緒に走ってくれてありがとうございました。

さくら道国際ネイチャーランに参加する為サロマ湖 100 k やいろんな大会にも参加しました。

これからも頑張って走ります。

応援サポート等よろしくお願いします。

ほんとうにありがとうございました。

ゼッケンNo. 10

氏名 上島 学

2007年の初参加から通算13回目の参加でした。

初めて走った2007年は、とにかく完走、36時間以内、できる限り速く走ろう、と思っていましたが、完走翌日、当時は、月曜日に行われる閉会式に向かうバスの中から、土曜日夕方から夜にかけて通った「莊川桜」を紹介され、そしてビデオ(映画)を観て、改めて「さくら道」を走る意味を考えました。

そこから12回の「さくら道国際ネイチャーラン」は、愛知、岐阜、富山、石川の4県のコース脇にある、佐藤良二氏から心をこめて植えた桜を1本1本観ながら走るように心がけていました。またこの4月に大会を走るために集まってくるランナー仲間、応援に駆けつけてくれる仲間、そしてスタッフの方々との交流も楽しみにしていました。

今回「ラストラン」、最後ということでとても残念です。私個人としても途中転倒して骨折したにもかかわらず、最後まで走らせていただいた実行委員、スタッフの方々に感謝いたします。

今まで「さくら道国際ネイチャーラン」に携わってくださった全ての皆様に感謝です。ありがとうございました。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ビッケンNo. 11 氏名 上田 昌輝

2013年の初参加から5度目のさくら道を走らせて頂くことが出来、無事完走する=とか出来たことを喜び、同時に大会関係者の方々、ボランティアスタッフ、沿道で声をかけて下さっていたランナーの方々に感謝申し上げます。

さくら道を走らせて頂き、たくさんの方に出会い、新しい走り世界を見せて頂きました。一番の出会いには佐藤良二さん、桜を愛し、人の幸せを願う、太平洋から日本海へ桜のトンネルを!という壮大な夢に参加出来たとは大変光栄です。

さくら道 ファイナルの今回、白鳥までの110kmを佐藤良二さんが植えられた桜を探しながら、桜への想いを感じながら走らせて頂きました。ゴール前、佐藤良二さんの顕彰碑に伺うことが出来て越無量でした。このコースの発案者の方は私が人としてランナーとして尊敬する人です。ゴールでは名前を呼んで頂き、ゴールテープを切り替えてもらってさくら道ランナーとして最高の瞬間でした。完走出来た安堵とファイナルという現実に寂しさも感じましたが、ゴールで待って下さっていたスタッフ、仲間の笑顔を見ると新しいスタートに向けて踏ん張っていかなければならなかったと思いました。

さくら道の歴史、佐藤良二さんの想いをずっと語り繋いでいきたいですね。

新しいさくら道のスタートラインに立てるように走り続けます。

共にさくら道を走って下さったランナーの皆様 ありがとうございます またさくら道でお会い出来る日を楽しみにしております。

「さくら道国際ネイチャーラン」岐阜生まれ育った私には、馴染み深い大会でした。私が、初めてさくら道国際ネイチャーランの知ったのは、まだ 20 代の頃でした。近所をゼッケンをつけて走る男性ランナーを数名見かけ、「何の大会ですか？」と尋ねて驚いたのを覚えています。

まさか、その何十年後に自分が走るとは思ってもいませんでしたが・・・

2010 年から知り合いや友人が、さくら道に参加するようになり、ボラと応援に回っていましたが、その時も夜通し 250km も走るなんて私にはあり得ないな～と思っていました。

その私が、さくら道国際ネイチャーランを目指すキッカケとなったのは、9 年前の 2015 年に天国に旅立った親友の白潟道博さんとの約束でした。

当時、肺がん末期で闘病中だった白潟さんと 2015 年のさくら道のボラと応援に行った時のことです。

「来年は、一緒にさくら道を走ってほしいな～。ゴールには走った人にしか分からない宝物があるから、その宝物を僕が生きている間にみてほしい。」

その言葉でした。

その詳細は↓↓↓ここに書かれています。

<http://blog.livedoor.jp/shin1rot/archives/5206606.html>

それまで、超ウルトラにはあまり興味が無かった私には、練習方法やら夜間の走り方やら何をどうして良いか分からず、しかも夜間走用のヘッドライトさえ持っていない。

地元のさくら道ランナーの方々の練習会に参加させて頂くものの、真っ暗な峠道が怖くて泣きそうになったり、暗くて眠くてつまづいて転んだりで付いていくのがやっとでした。

そして 2016 年がさくら道国際ネイチャーラン初出場、地元のコースを走るだけあって、どこかのエイドにも顔見知りや友達がスタッフとしていてくれたり、応援に来てくれてたりで嬉しくて楽しくて、第 2CP の白鳥 107km までがあっという間に感じました。。

しかし、やはりさくら道は甘くなかったです。真夜中から雨が降り出し、明け方からは身体が吹き飛ばされるくらいの強風悪天候になり、大会は途中で中止となった 2016 年準完走が、私の初さくら道でした。

2 回目のさくら道は、2017 年でした。

実は 2016 年のさくら道が終わった 1 ヶ月後に、私の身体に異変があり検査の結果大腸がんステージⅡでした。

手術と投薬治療の日々が続きましたが、どうしてもさくら道のゴールにある宝物が見たくて、ギリギリまで悩みましたが参加を決意。

しかし、やはりさくら道は甘くなく、根性だけでは走り切れる大会ではありませんでした。

昼間の暑さ、夜間の寒さに治療中の身体は悲鳴を上げ、意識朦朧となり実行委員スタッフに声をかけられリタイアとなりました。

2018年、2019年はボランティアと応援に、2020年3回目のさくら道に選考されましたが、コロナ禍で大会中止。

その後、4年間大会中止が続き、やっと昨年2023年にさくら道国際ネイチャーラン 250km 完走することが出来、ゴールにある宝物を見つける事ができました。

そして、今年2024年はラストのさくら道と知り、スタートするまで複雑な気持ちでいっぱいでした。その今年2024年のさくら道国際ネイチャーランの名簿に、さくら道が大好きだった友人「岡 さゆりさん」の名前はありませんでした。

2023年のさくら道申込の際、彼女からこんな連絡が来ました。

4年振り開催のさくら道ネイチャーだけど、私は申し込めない。さくら道 250km を走れる走力が、今の時点で無いので申し込めない。

さくら道は、申込の時点で最低限の走れる走力が無いと走り切れない大会だと思う。走りたい気持ちは大きいけど、それだけで走れる大会ではないと思ってるから。

でも、来年は走りたい。

そして、2024年さくら道国際ネイチャーランの申込が始まった日。。

彼女は、さくら道を申込むことは出来ませんでした。

彼女は昨年の秋に天国へ旅立ってしまったのです。。

今年ラストのさくら道、「岡 さゆりさん」そして、私にさくら道を走るキッカケを与えてくれた「白潟 道博さん」と一緒に走ろう、ラストは、さゆりちゃん、みっちゃんと一緒に3人でゴールすると決め練習してきました。

ラストのさくら道は約半部分の110kmの距離だけど、簡単な道ではないことを忘れず、そしてラストの大会に係るすべての人・物に感謝しながら、3人一緒に走りました。

さゆりさんを知る今年参加のさくら道ランナーも、さくら色の喪章をつけ、さゆりさんと一緒に走ってくれました。

13番美並のエイドとゴールには、さゆりさんの御家族も、さゆりさんの完走証を持参し応援に駆けつけてくださっていて、美並からは涙が止まらなくなっていました。

涙で呼吸困難状態で走れなくなりかけていたところ、八幡から地元のさくら道ランナーのI君がゴールまで私のペースに合わせて一緒に走ってくれました。

I君のペースで走れば、もっと早い時間帯にゴールできるかもしれないのに・・・やはりさくら道ランナー、競争ではなく共走なんだなと感じました。

30年続いたさくら道国際ネイチャーラン。

ランナーとして、ボランティアスタッフとしても携わってきた、私のウルトラの原点となる大会でした。

さくら道を走る度に、少しずつですが強くそして成長させてくれました。

速い人が凄いのではない、挑戦した人、完走した人、応援してくれる人、徹夜してサポートしてくれる人、大会に携わる全ての人が凄いのだと。

自分のためではなく、地位や名声が欲しいのでもなく、誰かのために…

自分がどう生きて、何をすべきなのかを考える機会を与えてくれました。

これが、さくら道のゴールにしかない宝物でした。

さくら道国際ネイチャーランは、どのランナーも気づかないうちに、お互いに気持ちを和ませ打ち解けていく、同じゴールを目指すことでランナーの心がひとつになる温かく絆の深い大会でした。

大会はラストになりますが、一度きりの人生を価値のあるものにするため、私の決めたさくら道をこれからも走り続けていきたいです。

最後に、30年間大会を支え続けて下さった大会実行委員、スタッフの皆様、ボランティアスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

～♡感謝♡～

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 13 氏名 内田 芳朗

最後の「さくら道国際ネイチャーラン」。

ランニングを始め、次第に超長距離走に惹かれてきた自分にとってさくら道とは憧れの大会でした。走力を上げ大会の趣旨への熱い思いが伝わり昨年初めて参加させて頂き、名古屋城～金沢兼六園を完走することが出来ました。

昨年の大会では、後半の脚の疲労と眠気で五箇山以降の登りは走れなくなったので来年は力をつけて 250km を走り通してやる気持ちでトレーニングに励んできました。

来年も大会が開催されるのが当たり前のこととと思っていましたが、2024 年がラスト開催、更に距離は 110km との発表があり衝撃的な気持ちでした。大会を継続して開催することが難しいことだということが伝わってきましたし、250km という超長距離では尚更のことだと思いました。それでも、最後の大会をハーフ(110km)として開催して頂き、走らせて頂いたことに大変感謝申し上げます。

今回、諸事情により大会当日の宿泊と翌日の閉会式を欠席することになってしまい申し訳ない気持ちと残念な気持ちで一杯でした。それでも走らせて貰えるのなら何としても完走しなくてはとの思いで景色とエイドを堪能して最後のさくら道を走り切ることが出来ました。咲いている桜が見れなかったのは心残りではありましたが、後半暑さできつい時も沿道の方や走行中の車の中からの応援で元気をもらい、エイドに着けば温かいおもてなしのおかげで力が湧き完走できたと思います。

今回はハーフなので全て走り切ることを目標にしていたのですが、最後の故佐藤良二氏顕彰碑の直前の激坂を前にして一瞬で脚が止まり歩いてしまいました。

しかし、顕彰碑で折り返してからの下りはウイニングランの如く走り切り、白鳥振興事務所のゴールテープを切った時は感無量でした。

翌日の桜の植樹式と閉会式に参加出来ませんでしたが、後日本製の完走証を送って頂いたことに感謝しかありません。この場を借りて大会事務局にお礼申し上げます。

28 回の大会の歴史の中で自分が参加したのは昨年と今年のたった 2 回ですが、かけがえない経験をさせて頂きました。これまで大会を作り上げてこられた大会関係者の皆様、エイド・ボランティアスタッフの皆様に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 15 氏名 遠藤 賢児

30年目の節目となる2024年で、長らく愛されてきた「さくら道国際ネイチャーラン」が、ラストランとなりました。その30年の歴史の中で、わたくしは2017年に初出場し、以後コロナで中止となった年を除き、今回のラストランまで、連続5回目の完走をさせて頂くことが出来ました。

大会に出場するたびに、新しい仲間が増えて自分自身の中では、一年の中心となるイベントとなっていました。そのさくら道が、今回でラストランとなることが寂しくて、心にぽっかり穴が空いてしまったように感じています。

今回のラストランでは、ゴールも白鳥町振興事務所に設定され距離も制限時間も短くなってしまったため、自分の心の中では、制限時間ギリギリ一杯(1秒でも長く)を使って感謝の気持ちを持って走ろうと決めていました。幸いなことに、ウエーブスタートも第5組の最終組であったため、一番長くさくら道のコースを楽しむことが出来ました。

大会当日名古屋城をスタートしてから、一宮に向けて最後尾を3名程で進んで行く。その中の一人に、2018年、2019年にトップでゴールしたT橋さんとは、いろいろな話をしながらとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。地元の岐阜県に入ったところから、エイドも充実してきて、スタッフや、ボランティアの方々と、いつもより滞在時間を長く、そしてより多くの交流を図りながら進んでいきました。今回、最後のさくら道ということもあり、うちの嫁さんが、応援で道の駅美並で待っていており、「絶対に完走するよ!」と言だけ会話をし、出発しました。

八幡駅を過ぎるころから、だんだん涼しくなってきた走りやすくなりました、と同時にゴールが近づいてきて、この大会が終わってしまうと思うと、何かしんみりして寂しくなってしまう、自然と涙ぐんでいました。大和町を過ぎてからは、ほぼ一人旅でしたが、相変わらずマイペースで走っていきます。最後のエイドである白鳥交通センターで、スタッフからゴール間に合う? 的なことを告げられたため、慌てて走り出します。自分自身の中では、ここから顕彰碑折り返してのゴールまでの8キロが、一番楽しいウイニングランでした。

30年の節目のラストさくら道国際ネイチャーランのファナルランナーとして、一番最後のゴールテープを切ることが出来ました。

最後に、この大会を支えてくださった大会関係者の皆様、エイドスタッフ、ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo.16 大川 紀夫

2028・2019・2024年の3回に渡り「さくら道国際ネイチャーラン」に選考していただいたのは大変ありがたいことです。2023年は応援者として声援を送りながらランナーを追いかけてきました。道中で偶然お会いした方々とネイチャーランについて語り合いました。一人はドライブ中にひたむきに走るランナーの姿に感動し、いても立ってもいられず兼六園下で佐藤桜に向かうランナーを拍手で讃えていた金沢市在住の方。もう一人は念願だったエイドスタッフに数年越しで携わるチャンスをもらえたのがとても光栄だと、ささら館エイドに到着したランナーを温かく迎えていた郡上八幡在住の方。見る人をも奮い立たせるネイチャーランに私自身も関わられたことを大変誇らしく感じています。

佐藤桜での笑顔と涙のゴールに立ち会い、果たして自分はまたネイチャーランに参加できるのだろうかと思案しました。2020年からの数年間、私を取り巻く環境も大きく変化し、家族を迎える喜びと見送る悲しみを経験しました。気持ちの整理がつかない中、楽しく走れるのだろうか悩んだことも幾度とあります。しかし、2023年のネイチャーラン終了後、中西友紀さん、安孫子亮さん、高橋伸幸さんから「来年は選手として一緒に走ろう」と声をかけてもらえたことで、「皆と一緒にネイチャーランを完走したい」と気持ちは次第に前向きになりました。自分一人で走るのではない、気にかけてくれる仲間と共に完走の喜びを分かち合えるように、地道にトレーニングを重ねました。

選考していただけるのであれば、ランナーの立場から最後のネイチャーランを盛り上げようと決めていました。長時間に渡りランナーを支え励ましてくれるエイドスタッフの方々にエールを送るというものです。ランナーのオアシスであるピンク色のエイドに立ち寄れるのも今回で最後だと思うと、スタッフの方々へお礼の気持ちをエールに込めて、もう二度と味わうことができないネイチャーランを堪能しようと名古屋城をスタートしました。

どなたかの応援の方。わざわざお店から出て応援してくれる郡上八幡の蕎麦屋の方。声援を送ってくれる見ず知らずの方々との思い出を残さなくてはと、一緒に写真を撮らせてもらいました。子どもたちや沿道の方からの応援を受けるのも今日で最後。声援に対するお礼とエールを精一杯送ります。ネイチャーランが終わっても、それぞれの方々の思い出として記憶の片隅に置いてもらえるのなら嬉しい限りです。

白鳥交通エイド先の歩道橋を渡ると、いよいよゴールが近づいてきます。良二さんの顕彰碑を折り返して来たランナーとエールの交換をすると気持ちが高ぶります。選手として参加した2018・2019・2024年、応援者として選手に声援を送り続けた2023年、いろいろな出来事がありました。

2018年、雪が残る156号線をトイレの調査をしながら試走したこと。「皆さんが完走するためにボクらは働くのです」というスタッフの方の言葉にジーンときたこと。遠くから名前でも呼んでくれた喫茶ぶらたんエイド。絶品のフルーツポンチ。「来年もここに来るんだよ」と鶏ちゃん焼きを振る舞ってくれた道の駅白鳥エイド。闇夜に咲き誇る桜の美しさ。2019年、転倒して膝を擦りむき、丁寧にキズの手当をしてもらった下野々俣山谷前バス停エイドと牧戸交差点エイド。一緒にゴールした台湾の江耀民さんと友達になり、台北で何度もお世話になったこと。2023年、名古屋城から金沢までレンタカーの窓から声を枯らして応援したこと。都合で出走できなかった河内勇人さんが焼きたて焼き。2024年、最後のネイチャーランへの参加が叶い、多くの方々から励ましてもらえたこと。八幡信用金庫大和支店エイドでは昨年出場の早川睦さんが私の応援で元気をもらえたと言ってくれて、誰かのチカラになったことがとても嬉しかったこと。

良二さんの顕彰碑にタッチをして、ゴールの白鳥振興事務所へ向かいます。スタッフの内記淳司さんの選手コールが心地良く、すぐにゴールするのが勿体ないのですが、仲間が待ち構えてくれています。私にとって至福の時でした。

翌朝、良二さんのお墓を訪ね、ネイチャーランと巡り合えたお礼を伝えました。ネイチャーランは今回大会で幕を閉じますが、太平洋と日本海を桜のトンネルでつないで人々を喜ばせようと他が為に行動した佐藤良二さんのように、そして、ランナーの完走を願い、熱い想いで支え励ましてくれたスタッフの皆さんのように、ランナーを応援する立場で各地の大会に携わる際には、佐藤良二さんとネイチャーランのスタッフの皆さんの熱い想いを引き継いで、挑戦するランナーの背中を今まで以上に押せるような熱量の高い声援を送り続けていく所存です。

ネイチャーランを共に走ったランナー、支え励ましてくれたスタッフ・応援者・関係者の皆さんにお礼申し上げます。最後に、2023年は名古屋から金沢まで昼夜問わず一緒に選手を応援し、2024年も2年連続の応援隊として選手に声援を送り続けてくれた安孫子めぐみさんと妻の陽子に感謝します。Ευχαριστώ πολύ！

ゼッケンNo. 17 氏名 大島雄治

鳥もル名走タ何ないのあこ。一は皆すに会
 白て一は完スく的らそもる始。ゴのた様当入
 のせゴ最後のはす身ぐ。間切で鳥ウ。皆本か
 フさ園最目会や献なす。時リト白まさた間日
 ー場六き回大りのぎまい乗一のし下。いの
 ハ出兼だ10の走フすいなで夕動てて。長時
 ンでトたと年の走ッし思くどス感しえ下。何
 ラルーといル今較夕ばとしな鳥で了支てす。又
 ーータてー。比ス飛たわ援白分終をえま。す。
 ャゴスせゴた。れやでれ思支は58か会支した。ま
 チ園城さ鳥しま援か走もの後間会大をたし。い
 イ六屋走白ま恵成人に調フ最時大でーいま願
 ネ兼古完でもの何調体ッ。10。また謝いを
 際て名回トでに道り順や夕た。口た。今ン感むと
 国し。8ーが候治あ迄み入し。キしかうにむこ
 道ト来を夕と天にも駅痛がま10ますで様うる
 桜ー以口ス。こら上どののたきにきで道皆とす
 08タてキ城るか以な道足し。で道でい治のが活
 20ス。250屋すトも援並はまが桜かし。てり復
 くら。250古を一時支美後りとた。ル寂様。べあが

2024 さくらみち国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No.18 氏名 太田 哲也

この度は、さくら道国際ネイチャーラン LAST RUN に参加させていただきありがとうございました。

桜の季節になると今年は、さくら道国際ネイチャーランの選考に選ばれるか楽しみでした。

今回で 3 回目の参加となり内 2 回完走(2017 年、2024 年)DNF1 回(2018 年)の結果でした。

LAST RUN は名古屋城から兼六園のコースではなくハーフの距離(110km)と言う事で絶対完走を目標に練習をしてきました。

しかし近年、足の骨折や大会 1 ヶ月前に入院したりと体調万全ではありませんでしたが大会関係の方々、エイドスタッフの皆様にご協力していただいたの完走でした。

ありがとうございました。

大会中は岐阜県に入って 16 エイド手前のトンネルの反射板に手をぶつけてしまい血だらけになり 16 エイドのスタッフに手当をしていただいてリスタートしましたが、毎回思う事ですが岐阜県は 4 月なのに 30℃近く気温も上がり今回も暑くて大変だった事を思い出します。白鳥に入って故佐藤良二さんの顕彰碑に向かう坂に入るとご近所の子供が一緒に走って案内してくれました。

子供に今日何回目なの?と聞くと 4 回目とのこと…

まだまだランナーが来るから案内頼むね!

と伝えて顕彰碑にタッチして記念撮影をして下り坂を感謝しながらゴールまで走りました。ゴールでは内記さんがゴールした選手をアナウンスして会場を盛り上げていただきました。

今まで約 30 年間さくら道国際ネイチャーランを開催して頂きありがとうございました。

今回いただいた LAST RUN の完走証(通称まな板)は「宝物」です。

また、さくら道国際ネイチャーランを再開していただける事を願っています。

「さくら道国際ネーチャーラン」という大会の存在は、愛知県在住ということもあり、以前から存じ上げておりましたが、まさか自分がその大会に参加するなんて、夢のような出来事でした。

長年の不摂生がたたわり、50歳を目前にした頃にはメタボー直線の不健康なおじさんとなっておりまして。そこで一念発起、ダイエット目的でランニングを始めたのです。そして、走り出して半年が経った頃、せっかくだからどこかのマラソン大会にでも出ようかと考えていたんですが、その当時は、今と違って方々でマラソン大会が開催されておらず、探していた5月頃に申し込める適当なフルマラソンの大会がなかったのです。唯一、目についたのが、四万十川ウルトラマラソン！

「えー、100キロかあ。」 走ったこともない距離にちょっと躊躇はしたものの、知らないとは怖いもので、エイッ、ヤアー！と申し込んでおりました。結果として、12時間を切って完走できてしまったことで、ちょっと違ったラン嗜好となったようです。

その後は、ウルトラマラソンを好んで走るようになり、サロマ湖や萩往還 140 などを経験させていただいたのですが、そうこうするうちに会ったのが、「さくら道」です。その年は、さくら道ランナーのHさんが初出場した年でした。申し込みば誰でも出場できるものでなく、レース履歴と作文を提出した上での書類選考というハードルの高さが、またそこへ向けての意欲をそそるものでありました。

それまでの経過から、ほどなく出場できるだろうと高をくくっていたところがありました。でも、現実甘いものでなく、あちこちの100キロマラソンを完走できず、書類に書き込む実績を上げることができませんでした。その間、何度も大会は開催され、皆さんの雄姿や頑張りを目の当たりにして、捲土重来を機す、そんな時間を過ごしておりました。

そしてコロナ禍。開催中止が3年続き、自分も年々歳をとっていきます。2023年の選考結果は補欠の6番目で、出場までもうちょっとだったのですが、実は、身体的には足の故障が悪化、選考されても辞退せざるをえないそんな状況でした。その時はもう走れないと思っていたので、ウルトラ等の長い距離は諦め、最後のご奉公のつもりで五箇山のエイドボランティアに参加させていただきました。

五箇山のエイドは、日にちが変わる深夜からお昼頃まで10時間以上に及ぶ長丁場です。真っ暗な山中にヘッドライトの光が見えてくるとそこから20分〜30分ほどしてランナーが上がってきます。ランナーとランナーの間は、長い時になると1時間以上の間があきます。その間、じーっと真っ暗な闇の中を静かに凝視しています。200キロ以上走った後、この坂を上ってくるランナーさん達。下界では周りから変態扱いされるような屈強な人達が、一人一人、もうこの世の終わりかという感じになっています。ある人はトボトボと歩いていたり、時に嬉々として駆け上がってきたり・・・。

そんなさくら道ランナーさん達を見ていると、片足が痛いくらいで走るのを諦めてしまっている自分が情けなく、恥ずかしくなり、「もう一回、頑張ってみよう！」そんな気にさせてもらいました。

大会関係者、応援していただいた皆様のおかげをもちまして、晴れて、ラストランとなる2024年のさくら道に出場することができました。結果は、その行程が白鳥までの110キロだったにもかかわらず、途中リタイアとなってしまいましたが、今持てる力は、出せたのかなとは思いますが。

あのまな板状の完走証を自分の葬式の祭壇に飾ってもらい、棺桶の中に入れてもらうことを生涯の目標にしていますので、近い将来の大会復活を願い、今後も精進していこうと思います。

どうもありがとうございました。

以上

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 20

氏名 木平 美佳

私はラストさくら道ネイチャーランに選ばれるべき人間だった。

大会が終わり1週間が経ち、ようやくこの結論に至った。

なぜなら、私はウルトラランナーとして、人として未熟すぎたから。

楽しくて、感動して、全てのことに感謝をし、全身全霊で満たされた3日間のはずだったのに時間が経てばたつほど、もやもやした毎日を送っていた。あの3日間のいろいろな人の話、表情、涙、景色、全てが頭から離れない。

関わった回数が多いほどその思いは強く深く重いだろう。私なんか計り知れないほどに。

ランニングを始める前から名古屋城に勤務していたため、この大会の存在は知っていた。

ただ、自分とは無縁の世界、そもそも名古屋から金沢まで自分の足で走る意味も目的もわからず。

それから走ることにハマり、2016年に名古屋城のスタッフとしてスタートの見送りをし、その翌年選手としてスタートラインに立った。

その年は準完走、それ以来2度目の出場となった今回のラストさくら道

今思えばただただ楽しい、残念で終わった2016年。

常々この大会の素晴らしさ、重さ、尊さをわかっているつもりだったが、選手のあまりの熱量の大きさに圧倒されどうしてこんなに必死なんだろう、なんでこんなに熱くなれるんだろうと思ったりもし、一度は完走したいと思いつつこの大会から目を背けていた時期もあった。

出たい人がたくさんいるんだから何度も出場している人は羨れればいいのにと応募するのに作文が必要だなんてと思ったりもした。この大会の趣旨やみんなの気持ちもわかっている気になっていた。

本当に間違っていました、申し訳ありませんでした。

心底恥ずかしく思います。

ひとりみんなのために、みんなはひとりのために。

自分の信じた道を貫くこと。生き抜くこと。

誰かのためにがんばること。仲間を想い流す涙。

仲間への思いやり、気遣い、助け合い。

今までこの大会に関わってきたすべての人の思いや信念、生き様、歴史、思い出。

大会が終わっても、繋いでいくこと、引き継いでいくもの、伝えていくこと。

結局私は出場した2回とも兼六園の佐藤様まで行くができずこの大会を終えた。

が、それでよかったと今は思えるし、その資格がなかったんだと心から思える。

でも、いつか必ず自信を持って自分の足で抱きしめに行きます。

この3日間のない人生が考えられないほど、生き方や在り方を考えさせられるラストさくら道ネイチャーランでした。

あの景色も音も声も雰囲気も全部、一生忘れません。

後日走った156号線はとても神聖で、自分の中から溢れ出す何かを噛みしめ、心が浄化される気持ちになりました。

これからもこの道は私にとって特別な道です。

そして、今のこの気持ちを忘れず、さくら道ランナーとして恥じることのない生き方をしたいと思います。

本当に本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 21

氏名 岡 正敬

「ナイスワラーチ！」 「足大丈夫ですか？」

ワラーチで走った私には、他のランナーとは違う声援、励ましの言葉をたくさんいただきました。

しかし、私にとって最初で最後のさくら道国際ネイチャーランは、その声援に応えることができず、制限時間内にゴールできませんでした。

走歴10年、このさくら道への出場、そして完走を目標に走り続けてきました。

ハーフではありましたが、最後の大会で選考していただけたこと、過去の完走者の方々と一緒に走れたことを大変誇りに思っています。

また、開会式での「みんなで協力して完走率100%を目指そう！」という言葉とおり、ランナーを始め、関係者が1つになり、励まし協力し合うすばらしい環境で走ることができました。

体調万全で名古屋城をスタートでき、美並のあたりまでは、他のランナーと会話しながら、気分的にも体力的にも余裕を持って、楽しく順調に走っていました。

しかしながら、その後は一転して胃腸トラブルで思うように走れなくなり、焦る気持ちばかりで楽しく走る余裕が無くなってしまいました。

このような辛い状況でも、諦めずになんとかゴール会場までたどり着けたのは、同じ苦しみを知っているウルトラランナーからの励ましがあったからだと思っています。

大会後は「なぜ、あの時もっと頑張らなかったのか、もう少し頑張れなかったのではないか」という後悔の気持ちが強くなる日々が続き、回想録にも手がつけれませんでした。

一方で、本大会で出会ったランナーとの「つながり」が築けたことによって、走るモチベーション、楽しみも強くなり、後悔の気持ちをかき消してくれました。

だから、新しい目標を見つけて、今後も楽しく走り続けられそうです。

大会は終わっても、さくら道（コース）が無くなるわけではないので、名古屋城から兼六園までの走破も今後の目標の1つにします。

本大会関係者のみなさま、応援してくれたみなさま、本当にありがとうございました。

残念ながら有終の美を飾ることは出来ませんでした。

顕彰碑までは行きましたが、ゴールで4~5分のタイムオーバーでした。

たかが5分、されど5分、遊び過ぎ、お喋りし過ぎ、250キロの走り方だったかな…。

最近良くやる計算間違い、いや実力です。加齢、練習不足で絶対的なスピードが足りませんでした。

時間オーバーなのですが、ゴール地点がよくわからず、公式時計の電源が止められていて、記録してもらえず、既に片付けが始まってこんな終わり方は少し悲しかったです。

最後のさくら道、ゴールしたら泣いてしまうかとも思っていたのですが、実はスタートからウルウルでした。何故か自然と目からスーと涙が流れてきて、足元がよく見えていなくて転ばないか心配しながら走っていました。過去のことはなるべく考えないようにしていたつもりでしたが、全然駄目でした。

大会で練習で何回も走ったこの道、次のカーブを曲がるとあの景色が見えてくるはず。くねくねと曲がりながら、次々と変化していく景色が大好きでした。

久しぶりの田舎への里帰りでワクワクするような感覚をいつもこのさくら道は感じさせてくれました。

昼間の気温上昇で、美並の道の駅の手前で脱水症状でスローダウンしたのが時間的ロスが勿体無かったです。その後は復活して遅いなりに、自分なりに最後まで諦めずに走ることが出来ました。

ラストなのだから本音としてはもう少し長距離を練習したかったのですが、畑仕事が忙し過ぎて、思うような練習が出来ませんでした。誰よりも練習したような黒い顔は、忙しい畑仕事の証です（笑）

1998年の第5回大会から参加し、参加22回、完走19回（内準完走1回）、リタイア3回となりました。暑い時、寒い時、雪の時、雨の時、強風の時、色んなさくら道がありました。厳しくもあり、温かくもあり、走っていて楽しくて仕方が無い大会でした。

特に昔走られていた方々に再会出来たのはとても嬉しかったです。これもさくら道の魅力だと思います。

私にとって、さくら道を完走することは人生の目標であり、参加することによって多くの人と出会い、そして沢山の思い出が出来ました。

もしもさくら道を走らなかったら、間違いなく違った人生になっていたことでしょう。飽きっぽい私が、まさかこんなに長く走っていることになるうとは思いませんでした。そして本当に沢山のことを学ばせてさしてもらいました。

人と人を繋いでくれたさくら道、この御縁に感謝して大切にしていきたいと思います。私にとって、さくら道ネイチャーランはあまりにも大きいものでした。またゆっくりと振り返っていくつもりです。

関係者、応援していただきました皆さん、本当に長い間ありがとうございました。

今回さくら道ラストラン参加出来たことに感謝いたします。

今回を含め6回参加させていただきました。

今回の回想録は今大会の感想を書かせていただきます。

今大会に2015年に初参加させていただき、それまでは100キロ迄しか走った
ことがありませんでした。練習も70キロまで。

夜通し走るのも初めて。初参加まで不安でしたが、それを吹き飛ばしてくれるのが
走る人数より遥かに多いスタッフの方でした。多分こんな大会他にはないと思いま
す。だから参加大会は完走出来たのです。なくなるのは寂しいですが、この大会で
得たものはこれからの人生で必ず役に立たせたいです。

本当に参加できたことに感謝いたします。

ありがとうございました。

初出場の2017年から7年間で開催された5大会全て出場させていただき
ありがとうございました。初出場の時からこの大会は自身一年で最も重要で
充実した時間になっていおり、初開催から30年目の今回で大会終了の報を
受けたときは本当にショックで寂しい気持ちでした…

5度目の出場となると出場する選手、スタッフ、ボランティアの皆様とも
顔なじみになり終始同窓会のような雰囲気でも今回も最高に楽しい時間を
過ごさせていただきました。

今回はコース短縮で郡上市役所のゴールが近づいてくると、身体が疲労して
いるので早くゴール休みたい気持ちとゴールしたらもうさくら道が終わってしまう
寂しさで複雑な気持ちになりましたが、今回はゴールで名前とメッセージを
コールしてもらえて、先にゴールした選手にも迎えてもらえ笑顔でフィニッシュ
することができました。今回も大会実行委員会、スタッフ、ボランティア
一緒に走る選手の皆様に支えられてゴールすることができ、深く感謝
しております。大会は一区切りとなりましたがいつの日か必ずまたこのさくら
走りたいと思います。この7年間、このさくら道のお陰でたくさんの仲間
繋いでもらい、最高に充実した時間を過ごさせていただきました。

本当にありがとうございました！

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 28

氏名 柿崎 美恵子

2012年初参加。2016年、リタイア。走る事に集中出来ない環境の中、沢山の方々に御迷惑をお掛けしてしまつた。2017、18年はボウで参加。ボウで参加する事で改めてさくら道のスタッフの凄さを目の当たりにし感動銘を受けました。必至に走る選手を見て沢山の力を手えてもらい、やっぱりこの道を走りたいたいと強く思いました。

やっと参加できると思つた2020年は中止。2023年 念願の完走。

2024年 リタイア。5回完走、2回リタイア

いつも思う。スタートラインに立てた瞬間でも辛い事。楽しく精一杯走りたい。

ゴール65km位で突然、足が止まる

恐ろしいくらいマインドは走りながら考え、身体が前に進む事を拒む。こんな事があるんだ。何とかしてこども。何をしても身体は思い通りに行かなくて、沢山のスタッフの方、ランナーの力をお借りしてしまつた。

励み合うのがこの大会では。と同じく、辛い状況の選手に言われた言葉は心に染み、幾度となく励まされたスタッフの言葉は心に突き刺さり

何人もの人が温かい手を差し伸べてくれ、完走してほしいとお願いしたけれどもこの経験は自分にとっての人の量の豊かさを感じたと思います。

開会式で体力の限界まで戦ったのはリタイアした選手ではないか、という言葉を自分の限界まで戦った事ができてという事はとても辛い事だが、こんなふうに思える言葉でした。

さくら道はホムンとして特別な場所です。ホムンさくら道はご縁を結ぶ大切な道です。ここで出会えたご縁の数々は掛け替えのない大切な宝物です。

本来は沢山の方々が力を尽くして下さる事が開催できてさくら道。

スタッフ、エイド、沿道の方々の温かい気持ちと励まして下さり、こんなにも手えてもらって良かったかと思ってしまう程です。

そして、それぞれの思いを持って挑戦する選手達。

こんなに素晴らしい大会は唯一無二だと思っています。

本当に今までありがとうございました。

できる事はありますが、まだいっぱい走りたいです。



ゼッケンNo. 29

氏名 加藤 千代子

最後のさくら道に参加させていただき、どうも
ありがとうございます。

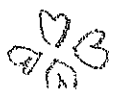
今回は 最後ということで、走りながら とても
淋しい気持ちにも なりましたが、「名古屋布役所
走友会」の仲間や 地元の方、車やバイクですれ違う方
など多くの方々に応援いただき、最後まで元よく走りきることが
できました。ラストの子どもたちの応援は とてもパワーをもらいました。

何より、さくら道は エイドが充実していて、あたたかく
もてなしていただき、本当に素晴らしい大会ということも
実感しました。皆さん どうもありがとうございます。

このような 素敵なお大会を30年も開催していただいた 実行
委員会、関係者の方々 本当にありがとうございます。

さくら道を走らせていただいたことで、24時間走も
走りきれるようになりました。

さくら道 ありがとう♡佐藤良二さんに感謝です。



2024 さくら道国際ネイチャーラン ～ THE LAST RUN ～ 回想録

ゼッケン番号 30

氏名 加納 裕美子

2005年、まだフルマラソンを一度しか走ったことのない時に応援に誘われ、初めて見たウルトラマラソンが『さくら道国際ネイチャーラン』でした。憧れの大会、大好きな景色となり、その後毎年応援・ボランティア・ランナーとして関わらせてもらっていた大会。ラストランになってしまうとは・・

開会式から閉会式まで、すべてにおいて最後を意識した今年の大会でした。スタートは最終組だったので、皆のスタートを拍手でお見送り。スタート時は涼しかったものの、途中から予報通り暑くなり脱水気味で辛い時間もありましたが、エイドスタッフや応援の方々、大会本部車からの応援に支えられて感謝を伝えながら、しっかり景色も楽しみながら完走することができました。今回初めてコースになった『顕彰碑』辿り着いた時には 佐藤良二さんへの感謝、この大会に関わってきた方々への想い、あと数キロで終わってしまう寂しさが一気に溢れてしまいました。

すでにさくら道ロス・・ぽっかりと心に穴が空いてしまっています。が、【さくら道】は存在し続けます。またいつか、このコースを走りたいと強く思います。本当に素晴らしい経験を沢山ありがとうございました。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ~THE LAST RUN~ 回想録

ゼッケンNo. 31

氏名 亀田 昌邦

スタートラインにや、と立って、これは夢か現実か？

2023年1月から何年にもわたってランニング。もちろん陸上経験なし
一生に一度、フルマラソン完走出歩たう良いなと思っただけ。

又、競走にはついていけないだろうと思っただけで、実際、毎日数キロ走りながら
意外に楽しかった。

そして、3月頃には何かレースに出たいと思っただけ、マラソンは終るという所に
フルマラソンの存在を知る。思いは知らず、100キロレースにエントリー
半年たらずで完走できるや？と考へずに、ただ100キロ完走目指して

毎日、毎日走るのが楽しかった。結果は無事完走したと同時に

次に目指したのは「さくら道国際ネイチャーラン」。1本のVTRと動画が
私の実走動画。250キロ？ そんなレースもあるなんて初めて聴いた時
とて興奮したのを覚えている。どんなランサーがいるのかな？

どんな想いで走っているのか想像がしにくかった。

出走できるランナーは数人だし、音楽と道標に導かれるように、

100キロの競走にはこれほどに出せたのが、後は祈るばかり。

無事完走し、本番のレース迄、走りに走った。そして、走り始めて1年が経つ頃に

100キロをサイ8を達成できるまで、本番のレースを楽しんでくれたのが、

本番の数日前にゴッリ腰になり、走ることはできないう状態に

スタートラインに立つことはできなかった事に、何となく感無量で、

結果は途中リタイア。初めは少し諦めたが、走り始めたと思っただけ、

翌日の開会式では、悔いさずに走り出せば、あれも一回はいい「さくら道」

毎日や同じでやうで同じでいい。当たり前のように当たり前でいい。

悔いのない走りを教えてくれた「さくら道国際ネイチャーラン」。

2024 さくら道国際ネイチャーラン回想録

No.34 黒木 良一

この場所は話ながら進んだ。この先のエイドでみんなと一緒に笑った。進むたびに思い出が甦りました。

さくら道国際ネイチャーラン出場は私のラン人生にとって最大の目標でした。さくら道について教えてくれたランナーが語った大会の素晴らしさや出場ランナーの凄さ。その中でも一番心に残っているのはエイドで出迎えるボランティアやスタッフにはしっかり感謝すること。さくら道を走るランナーにとって当たり前だと。基本的なことですがその方のエイドでの立ち振る舞いがさくら道を目指す中で指針となりました。

速いランナーではなく強いランナーを目指し努力した日々、補欠の通知を見てまだまだ足りないと感じ、練習に励み、出場通知を見た時は嬉しくて何度も見直しました。

初めてスタートラインから見た景色は今でも忘れません。憧れたさくら道のスタートライン。同じく初出場のランナーと「今もまだ夢のようですね。」とお互いに語りました。

過去3回の兼六園までの道のりはどれも楽ではありませんでしたが厳しいランとなっても毎回、兼六園のゴールを目指す思いは変わりませんでした。一歩、一歩進むにつれてどんどん身体は辛くなっていきました。その中でエイドスタッフ、ボランティアの皆さんの応援にどれだけ後押ししてもらえたでしょう。

あるエイドで見たボードの一言が記憶に残っています。「走り抜いてください。あなたの目指した道だから」この言葉が今の自分の支えとなっています。

一人一人の思いが繋がったこの大会に私も交わることができた事を大変嬉しく思います。その中で多くの素晴らしい方々と交り、さくら道を通じて様々な事を学ばせてもらいました。

今回のゴールまでの道のりは近づくにつれ終わってしまう寂しさが増していきました。

大会が終了した今、止まってしまうのではなくさくら道を走った自信を胸に精進します。

関わった沢山の皆さん、ありがとうございました。

さくら道国際ネイチャーランは、毎年楽しみにしていたイベントでしたが、今回が最後の開催となりました。この知らせを聞いたときの寂しさと驚きは言葉では言い表せません。それでも、最後のランを全力で楽しもうと決意し、スタートラインに立ちました。スタート地点では、いつも以上に特別な雰囲気漂っていました。参加者たちの顔には感謝と感慨が浮かび、号砲と共に走り出す瞬間は、忘れられない思い出として胸に刻まれました。

コースは、毎年変わらぬ美しい風景を見せてくれました。この瞬間、自然の美しさと儚さを強く感じ、今年が最後であることの悲しみも込み上げてきました。

沿道には、毎回声援してくださる人々が集まり、いつも以上に熱い声援を送ってくれました。エイドステーションでは、飲み物や食べ物が用意され、ランナー一人ひとりに対する心配りが感じられました。こうした支えがあったからこそ、最後まで走り切ることができました。

疲労がピークに達し、ゴールが見えてきたときの感動はひとしおでした。ゴールテープを切った瞬間には達成感とともに、もうこの道を走ることはないのだという切なさが込み上げてきました。

ゴール後には、多くのランナーと共に写真を撮り、思い出を共有しました。最後のさくら道国際ネイチャーランは、ただのマラソン大会ではなく、自然との一体感や人々との交流を深く感じる事ができる特別な時間でした。この経験は一生の宝物であり、さくら道を走ったことを誇りに思います。最後のランに参加できたことに感謝し、またどこかで同じような感動を味わえることを願っています。

ランナーとして6年ぶりにさくら道に帰ってきました。

早いもので2010年の初参加から今回で10回目の参加になりました。毎回本当に素晴らしい大会をありがとうございました。今回まで7回の完走、1回の準完走、2018年に大けがによるはじめてのリタイア。2019年、2023年(出場辞退)はスタッフとして参加し、今年ランナーとして復活し完走できました。

「さくら道国際ネイチャーラン」の大会名を初めて耳にしたのは2008年のギリシャでした。スパルタスロンに初参加で完走し、余韻に浸っていたところ「これでネイチャー申し込めるね！」って別の日本人に言われ「???」となりましたが、詳しく聞くと、日本最高峰のウルトラマラソン「さくら道国際ネイチャーラン」に参加するには完走が見込まれる実績が必要でスパルタスロン完走は実績として十分であるという。それから毎年「ネイチャーラン」に標準を合わせて調整してきました。毎年4月は同窓会のように名古屋にランナーが集まりとても居心地のいい時間を過ごすことができました。

この「さくら道」に参加することで繋がった縁、すごく貴重な宝物になりました。本当にありがとうございました。

大会名を耳にしてから16年。目標にしてきた「さくら道」がなくなってしまうのは非常に寂しいですが、時代の流れもあり致し方ないですね...

西の「さくら道」を目指して愛媛で立ち上げた大会「瀬戸内行脚」も今年で11回目となります。さくら道に負けないうこれからも頑張って続けていきたいと思います。個人的には引き続き何かの形で佐藤良二さんの遺志を継いでさくら道に関わっていきたいと思って考えておりますので、温かく見守っていただければ幸いです。

最後にスタッフの皆様、長い間お世話になりました。

本当にありがとうございました。

最終回は大和でタイムオーバー、さくら道(名古屋城-兼六園)は完走

さくら道国際ネイチャーランには、第1回大会(1994年)から第25回大会(2018年)まで連続参加し、17回完走、1回準完走(2016年)、7回DNFという結果だった。2018年には莊川桜でタイムオーバーになったので、2019年には未参加のランナーに走ってもらいたいと思ってエイドボランティアとして参加した。コロナ禍での中止を経て2023年もエイドボランティアとして参加し、今年も同様に考えていた。しかし、2024年が最終回と知り、参加を申し込んだ。加齢による体力低下に加えて、コロナ禍での大会中止が相次いで走行距離が減り、スピードも持久力も低下し、さくら道の完走は難しいと思ったが、最後の大会をランナーとして見届けたかった。1月末に参加が決定してからは、雨天以外は毎日数km、週末には数十km走り、名古屋城から白鳥振興事務所までのコースも走り、コース状況を確認し、最善を尽くせるように努めた。

4月20日5:06、名古屋城正門前を第3組でスタート。左手にマイコップ(水を入れ、給水と水浴びに利用)を持ち、各エイドの通過目標時刻を書いた紙を貼り付けた。現在の走力からすると、第1CP(「道の駅」美並)通過も危うかったが、完走・大和通過・八幡通過の3つの目標時刻を書いた。

序盤は涼しく、平坦路でもあり、50km過ぎまでは完走ペースで走ることができた。しかし、気温上昇とともにペースが落ち、みちくさ館では完走目標より3分遅れた。美並の関門は通過確実となってホッとしたとともに、完走には赤信号が灯って残念でもあった。美並関門通過後、暑さに加えて、いたち坂などの登り坂もあって、さらにペースが低下し、第2CP(郡上八幡駅)通過時は、第4CP(八幡信金大和支店)通過目標より10分遅れた。大和に向かっていると、初代運営委員長の三島一郎さんが応援して下さり感激した。

18:06、以前の太和エイドがあったJAめぐみの通過。第4CPまではさらに約1.2kmあり、タイムオーバーが確定。18:17に第4CPに到着し、13時間11分[公式距離97.7km]で11分のタイムオーバーとなった。エイドでゆっくり休憩させてもらってから、運営車に乗せてもらい、ゴールへ。少しずつ暗くなり、制限時刻が迫ってくる中、中山さん・後藤さん・鈴木さん・市川さん・遠藤さんなどの完走を見届けた。

21日の閉会式終了後、着替えと洗面道具を「民宿さとう」に預け、長良川鉄道で大和に行き、前日の終了地点(八幡信金大和支店)をスタートし、北濃駅前までの15.3kmを走った。佐藤良二さんの顕彰碑は4月7日に走行済みだったので省略し、名古屋城の佐藤桜から正門までは4月11日に走行済みだった。

22日は北濃駅前からひるがの分水嶺、牧戸、莊川桜、平瀬を経て白川郷までの54.2kmを走った。分水嶺に向かう途中、大会初期の運営委員だった尾村さんが車を止めて応援してくれた。ランナー兼運営委員の日置さんも応援してくれた。牧戸に向かって坂道を下っていた時、農家の方に挨拶すると「さくらマラソン？」と聞かれた。「今年は無いのかな」と思っていたとのことだった。莊川桜は、ウソという鳥が桜の花芽をほぼ食べ尽くしたため、満開の時期だったのに、ごく僅かしか咲いていなかった。平瀬では白山タクシーと田口建設に立ち寄り、長年のエイドにお礼を述べた。合掌の宿「文六」は1996年以降、練習の時に何度も泊まっていた。最近は一泊まりにしているとのことだったが、食事付にしてくれてありがたかった。

23日は白川郷から飛越七橋、小原、五箇山を経て福光駅前までの48.7kmを走った。沖山さんがエイドを担当してくれていた成出の先で、小白川郵便局に立ち寄り、2016年の暴風雨の時に避難させていただいたことに感謝を述べた。小原では、エイド場所を提供してくれた味処高千代で、シカ丼と熊鍋を食べた。五箇山トンネル(3072m、1984年開通)の歩道は、相変わらず滑りやすかった。本当の「さくら道」は、五箇山トンネルを通らず、細尾峠を通る道で、紅葉の季節に通ったことがあり、遠廻りだが面白い。峠の雪が融けて通行可能な時にまた通ってみたい。大鋸屋を過ぎ、南砺消防署に立ち寄り、エイド場所提供のお礼を述べた。駅前の宿に到着し、当初は一緒に白鳥-金沢を走る予定だった岩田さん(さくら道ウルトラマラソン完走者、今回は車で福光まで荷物運搬・一部共走)、地元の森田さん・大浦さんと食事会を行った。

24日は雨の中、福光駅前から富山・石川県境の佐藤桜を経て兼六園までの27.0kmを走り、佐藤桜に手を触れて、さくら道を完走した。「道の駅」福光からは森田さんと共走し、県境などでは大浦さんとも共走。新国道がさらに増えていたが、できるだけ良二さんが車掌を務めていた旧国道(旧コース)を走った。白鳥-金沢では、遅咲きの八重桜などが咲いており、「さくら道」を堪能することができた。「さくら道」を走って良かったのは、多くのランナー・ボランティア・スタッフの方々と知り合いになり、仲良くなったことだ。

さくら道国際ネイチャーランは今回で幕を閉じた。しかし、佐藤良二さんが桜を植え続け、「太平洋と日本海を桜でつなごう。人々が仲良く暮らせるように」と願った「さくら道」がなくなるわけではない。来年からは、桜が咲く季節に、名古屋城-白鳥-分水嶺-莊川桜-兼六園を数日間かけてゆっくり走り歩きたい。

ピッケルNo. 39 氏名 小島 良三

記念すべきラストランを走らせて頂きいよいよお礼申し上げます。

2013年から走り始めて、いつかは さくら道を走りたいと思っていました。

今回も完走された服部隆充さんの紹介で 39番 五箇山タクシーで 5年間
エイドをさせて頂きました。大雪、強風途中 中止の時もエイドでした。

佐藤良二さんの想いを抱き精神も肉体も鍛えた人しか選らばれない。

だからボランティアで貢献しようと思っていました。

何度も完走している先輩から是非挑戦すべきだと背中を押して頂きました。

「世の為になる事をせよ」良二さんの父の教えは、私、良三の父の教えと同じです。

開会式の中村儀朋先生の話しもDVDも大変感銘を受けました。

大会当日、大勢の応援を受けて緊張し、怪我をして走り込み出来なくて
不安を抱えながらスタートしました。

ワイフも初めて応援に駆けつけてくれて、感謝で一杯でした。

おもてなし溢れるエイド、道中でも年輩、ランニング友だちに元気を
頂きマイペースで進みました。50キロあたりから気温が上がり、
ペースダウン。心拍が上がりクラクラして来たので体調を考えながら
進みました。気温上昇に対する準備不足でした。

しかし満開の佐藤桜を見ながら、佐藤良二さんの想いを感じながら
幸せでした。あきらめずに進み佐藤良二顕彰碑には走らせて頂け
ませんでした。ゴールまで走れて 一生の思い出です。

さくら道国際ネイチャーランは最後となりますが、佐藤良二さんの想いを
後世に伝える活動は続けたいと思います。

いよいよ感謝いたします。ありがとうございました。

さくら道を走り出したのは 2010 年から、2015 年は腰痛でエントリーしませんでした、それ以外の年は参加、まな板を増やすために必死で練習を積み重ねました。このコレクションもあと 1 枚で 10 枚(準完走含む)となった 2020 年、感染症拡大に伴い大会中止。この連絡を受けたとき、途方もなくしんどいこの練習にここで終止符が打てると正直少しほっとしてしまい、これを期に走ることから遠ざかっちゃいました。2024 年に最後のさくら道が半分の距離で開催されることを聞き、墮落しきった状態ではとても完走できたもんじゃないことは自覚していたのですが、申し込まずに後悔するより、さくら道への思いをエントリーシートにぶつけ、申し込みをしました。後日、スタートラインへの招待状、ピンクの封筒を受け取り、ラストラン参加への思いに逡巡しました。

「僕は、果たしてさくら道を走るのにふさわしいランナーなのだろうか？」

さくら道の選考は、ゴールできるランナーを選んでいると聞いてきた。この大会でゴールするにはいったいどんな要素が必要なのか、わからなかった。超長距離をたくさん走っていることか、それとも体の強さ、スピードを持っていること、持久力、負けない、あきらめないメンタル、前向きにランを楽しむことだろうか。ふたたび走り出した自分は何一つ持っていなく、むかしの練習コースを走ってもすぐ息が上がり、歩いてしまっていた。

これまで参加したさくら道では多くのランナー、スタッフから走ることの楽しさ、尊さを教えていただき、ランナーとして少しは成長できたと思っている。この感謝の気持ちと、自分のランナーとしてのこだわりから何とか完走したい、どんな形であれ完走することを自分に課した。

スタートは初めての最終組。走力もないのでいくら進んでも前のランナーに追いつくことができない。ウルトラ以上の距離を走るのは 5 年ぶり。どこでつぶれてしまうかわからないが、前半はあせらずペースを刻む。60 キロをすぎたあたりで少し脱水状態から軽い熱中症、足が前に進まなくなった。ゴールが兼六園なら間違いなくフィニッシュできない。でも今回は佐藤良二さんの顕彰碑。ここには何があってもたどりつく。沿道の応援、スタッフのサポートがそれを後押ししてくれる。日が暮れてしばらくしたころ、さくら道～THE LAST RUN～のフィニッシュラインを越えた。立ってられないくらい気持ちが悪かったが、気持ちは高揚していた。燃え尽きることはできた。自分の中のさくら道に終止符を打つことができたと思う。

翌日、10 枚目のまな板を手にすることができた。結局、自分がさくら道のランナーとしてふさわしかったかどうかはわからない。でもこの大会にかかわり感じたことがある。それは大会スタッフがピンクのゼッケンをつけたランナーをととても大事にしてくれることだ。この人たちがいてくれたおかげで、最後のさくら道に戻ってくることができた。これをきっかけに、出口が見えなかった自分の人生から新たな一歩を踏み出すことができた。また、かならずどこかで。ありがとうございました。

さくら道国際ネイチャーラン ～FOREVER～

終わることなど想像もできなかった「さくら道国際ネイチャーラン」が突然幕を閉じた。30代半ばから携わってきた「さくら道」。年に一度の強烈なわくわく感をもたらし続けてくれた「さくら道」。

出会いはエイドボランティア。富山県境から少し石川県に入ったところにあった「たけまた友愛の家」。そこで何年か夜中からのランナーを迎えた後、場所を郡上八幡に移し、喫茶「ぷらんたん」でエイドを続けた。その間にダイエットのためのランニングを始めた。

「さくら道」にランナーとして初めて出場したのは走り始めて5年目のこと。そこから3年間、夢の舞台を堪能することとなった。

その後は仕事関連で多忙な日々を過ごすこととなり、練習の時間を確保できない時期が何年も続いた。そこから解放され、徐々に走れるようになった矢先、コロナ禍に突入した。ランナーとして走れなくなってからは本部スタッフとして「さくら道」に関わり続けた。実行委員会体制で運営していくこと、質の高い大会を提供し続けることの厳しさ、そして何より組織を発展継承していくことの難しさを身をもって感じた。

今回、最後の「さくら道」に12年ぶりにランナーとして参加することができた。

「さくら道国際ネイチャーラン」のルーツは映画「さくら」であり、その主人公は佐藤良二さんだ。今では佐藤さんの偉業は多くの人が知るところとなった。しかし、今の私にとっては反面教師としての佐藤さんの存在が大きい。ここに至るまで、仕事に、組合に、そして走ることに明け暮れてきた自分を佐藤さんに重ね、「さくら道」が終わった今、妻や家族、友人や職場へ恩返しをしたいという思いが大きくなっている。

携わった27年の「さくら道」を通して、私が得たものは何か…と考えた時、ひとつは、こんな自分でも「さくら道」が走れたのだから、という小さな自信である。何事も「やってみなければ分からない」と思えるようになったのである。そしてもう一つは、多くの人との「つながりの再確認」と「新たな出会い」だ。私の「さくら道」は本当に多くの、多くの、多くの方に支えられて在ったと改めて思える。出会ってきた全ての方に感謝の思いを伝え、私自身の「さくら道」も閉じたい。

佐藤良二さんの偉業は「さくら道国際ネイチャーラン」という舞台で30年に亘り、語り継がれ、広められてきた。佐藤さんの偉業を伝え広げる取り組みは、次の新たなステージへと引き継がれていくものと確信している。

R6.5.30 記す

さくら道における「自分史」

回数	西暦	和暦	参加形態	走 歴	年齢
1	1994	H6			31
2	1995	H7			32
3	1996	H8			33
4	1997	H9			34
5	1998	H10	エイドスタッフ①		35
6	1999	H11	エイドスタッフ②		36
7	2000	H12	エイドスタッフ③		37
8	2001	H13	エイドスタッフ④		38
9	2002	H14	エイドスタッフ⑤		39
10	2003	H15	エイドスタッフ⑥		40
11	2004	H16	エイドスタッフ⑦		41
12	2005	H17	エイドスタッフ⑧	9月「ランニング」始める	42
13	2006	H18	エイドスタッフ⑨	10月「ハーフ」初出走	43
14	2007	H19	エイドスタッフ⑩	11月「フル」初出走	44
15	2008	H20	エイドスタッフ⑪	6月「100km」初出走	45
16	2009	H21	エイドスタッフ⑫	6・10月「100km」出走	46
17	2010	H22	ランナー①	4月「さくら道」初出場	47
18	2011	H23	ランナー②	4月「さくら道」出走①	48
19	2012	H24	ランナー③	4月「さくら道」出走②	49
20	2013	H25	本部スタッフ①		50
21	2014	H26	本部スタッフ②		51
22	2015	H27	本部スタッフ③		52
23	2016	H28	本部スタッフ④		53
24	2017	H29	本部スタッフ⑤		54
25	2018	H30	本部スタッフ⑥		55
26	2019	H31	本部スタッフ⑦		56
	2020	R2	本部スタッフ⑧	＜コロナ禍中止①＞	57
	2021	R3	本部スタッフ⑨	＜コロナ禍中止②＞	58
	2022	R4	本部スタッフ⑩	＜コロナ禍中止③＞	59
27	2023	R5	本部スタッフ⑪		60
28	2024	R6	本部⑩/ランナー④	4月「さくら道」出走③	61

ゼッケンNo. 42

氏名 柴田 幸稔

11回完走して7年、還暦を迎えて6年が経ち、体力的に250Kmのさくら道に縁がないと思っていましたが、ラストランは白鳥までの110Kmと聞き申し込み、走ることができました。

名古屋城をスタートして、13エイド美並までは1Km 6分代と予定通りの走りでしたが、その先は除々に速度は落ち、足がうりだし、ますますペースが落ちていき、制限時間内でのゴールも怪しくなっていました。20エイド白鳥交通センターで西村先生にマッサージしていただき蘇えりました。白鳥振興事務所を横目に、多勢の声援に励まされ、顕彰碑への最後のラストラン。五箇山を彷彿させる上り坂はさすがに歩きました。顕彰碑にタッチして、スタッフに写真を撮っていただく間、静寂の中に何か不思議な空気が漂うように感じたのは私だけでしょうか。下り坂は力を振り絞って走り、残り15分でゴールできました。

佐藤良二さんの遺訓に賛同する大会スタッフ、ボランティアそしてランナーに支えられ、安心して走ることができ、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

いつか、ゆっくり白鳥を訪れて、自分を育ててくれたさくら道に懐古の情を抱きたいと思います。

薄いピンク、濃いピンクに彩られた「さくら道」、ラストランの今年は、コースの随所にその彩りを感じながら、楽しんで走ることが出来ました。

もちろん、スタッフやボランティアの方々は、昨年にも増して大会を盛り上げて下さり、幸せなひとときを堪能することが出来ました。

ほんまにありがとうございました。すべてのスタッフの皆様、各地で声援下さった皆様、そして参加ランナーの皆様へ。

名誉大会長のご発言「スポーツは文化」、自分自身もコツコツと紡いで行こう。

2024年4月、元祖「さくら道」最終章、おしまい。

この文章を読んで何かを感じたあなたへ
新たな章を立ち上げるチャンスは無限に。

事務局スタッフの皆様、選手の皆様、大変お世話になりました。

facebook に完走記を綴ったのですが、あまりにも長すぎて収まりきれないので回想録では過去のさくら道を振り返りたいと思います。

2008 年 初出場 開会式前に KKR ホテルのエレベーターで前年優勝の鈴木誠選手と初めてお話をしました。(8 か月後に結婚するとは思わず…) スタートでは緊張で固まっている私に吉越夫妻が「スパルタ完走してるんだから大丈夫」と声をかけてくださり、リラックスして走ることができました。最終1 区間は柴田さん・鳥山さんが「初めてだと最後わかりにくいから」と一緒に走ってくださいました。先輩方の優しさを感じたさくら道でした。 34 時間 55 分完走

2009 年 終始吐き気に苦しみ、脚は元気なのに思うように走れないのが悔しくて泣きながら歩いたり走ったり。ずっと隣で相棒尚ちゃんが励まし続けてくれました。最終エイドで尚ちゃんが「琴美ちゃん大変大変!」と大きい声を出したので何事かと思ったら「私、右と左で違う靴履いてる!」その場にいたみんなで大笑い。あんなに泣いていたのに最後は笑顔でゴールでした。 34 時間 22 分完走

2010 年 選考通過。自己都合で辞退。

2012 年 出産後初めてのさくら道。1 歳の娘と留守番を引き受けてくれた旦那に感謝。職場復帰して間もなくの出走で不安もありましたが無事完走出来てほっとしたのを覚えています。 33 時間 35 分完走

2014 年 選考通過 自己都合で辞退。

2016 年 今まで 40℃近いスパルタスロンやみぞれが降る中の 24 時間走など、過酷な条件で走った経験はありましたが、この年の体が吹き飛ばされる暴風の中命懸けで走ったさくら道はぶっちぎりで一番辛かったです。大会中止になるまで 100 km くらい同じようなペースで走っていたブリちゃんの明るさに救われました。 五箇山タクシーエイドまで 25 時間 53 分準完走

2018 年 4 月なのに 30℃超えの暑いさくら道。辛かった分レース中の思い出がたくさんあるのですが、帰りのバスで岡さゆりさんとたくさんお喋りした思い出が一番強く印象に残っています。 33 時間 45 分完走

2022 年 選考通過。コロナ感染拡大により大会中止。

2024 年 ここ数年病気ばかりで 2020 年 11 月・2022 年 9 月・2023 年 5 月に手術を受け走力はガタ落ちでしたが、最後の思い出に行けるところまで行こう、と自らゼッケンを外すことを禁じ進み続けました。かなり厳しい時間帯もありましたが、一緒に走ってくださった選手の皆さんやスタッフの方々の温かい声援のおかげで何とかギリギリ完走することができました。13 時間 52 分完走

憧れのさくら道を 6 回も走らせていただき、ウルトラランナーとして誇りに思います。夫婦合わせて 17 枚の完走証は宝物です。たくさん大切な出会いと思い出をありがとうございました。

今回が最後ということなので、これまでのさくら道ネイチャーランとの関わりと回想を簡単ではございますが、纏々書き留めておきます。

超長距離レースの最高峰であるこのレースに出たいと思ったのは、2014年に山口100萩往還マラニック250キロを38時間43分で完踏した時でした。このタイムなら参加できるだろうと思い、勇気を出してエントリーしたら「補欠第3位」の通知でした。なんて敷居の高い大会だと強烈な印象を今でも覚えています。結局、開催1か月程前に正式な参加通知が来て、万全の体制で臨み、無事金沢市の兼六園まで走ることができました。佐藤桜にタッチした瞬間は何回経験しても格別でした。

最初に参加した2015年以後の歴史は以下のとおりですが、振り返ると時の流れの速さを感じてしまいます。

2015年	32時間54分で完走
2016年	スバルタスロンに集中するため、エントリーせず
2017年	33時間54分で完走
2018年	35時間43分で完走
2019年	35時間52分で完走
2020年	当選するもコロナ禍のため中止
2021年	当選するもコロナ禍のため中止
2022年	当選するもコロナ禍のため中止
2023年	当選するも仕事多忙で準備不足のため辞退
2024年	13時間29分(110キロ)で完走

途中、エントリーを見送ることや、辞退することもありましたが、その中でも毎回選出してくださり、選考には感謝の一言です。出場した全てのレースにおいて、リタイアすることなく、ゴールまでたどり着いた自分を少しだけ労いたいと思います。それぞれの大会の思い出を語ればキリが無いのですが、一番印象に残るのは、エイドステーションの飲食物、量が非常に充実していたことです。特に、岐阜市内のCoCo壺番屋での取れたてのいちご、郡上市内のフルーツゼリー、ひるがの高原で寒い中いただいた暖かいおでん、五箇山タクシーで疲労困憊の中、心身を復活させることができた金沢カレーが脳裏に浮かびます。

言うまでもないことですが、運営も素晴らしく、エイドでの多数のスタッフの対応にいつも感激していました。リピーターの多い理由がよくわかります。また、このような回想録を取りまとめてくれる事務局は他には無いと思います。レースが終わってから大変だろうとお察しします。深く感謝申し上げます。

一緒に走るランナーの皆さんは素晴らしい実績と魅力をお持ちで、昼も夜も道中追い越したり、追い越されたりでしたが、その際は声をかけてくださり、お互いに励まし合うこともありました。そしていろいろと学ばせてもらいました。この出会いを今後の人生に生かしてまいります。

最後のレースはハーフで開催されました。顕彰碑手前があるひるがの高原へ続く道(国道156号)を横切るコースでしたが、その道を眺めて、「ああ、この道を走ることはないんだなあ。」と感慨深くなってしまいました。フルコース(250キロ)を走りたい気持ちも少しだけありましたが、現状を考えるとこれで十分かなとも思います。

この大会が終了してしまうことは非常に心残りですが、夜通しでサポートしてくれるスタッフやボランティアの確保やご苦勞を考えますと、わがままを言えませんが、仕方の無いことかなと思います。しかしながら、何らかの形で、この大会の趣旨、コース等を生かしたイベントを継続していただきたいと切に願います。

最後になりますが、実行委員、ボランティア、そしてランナーの皆様、これまで大変お世話になりました。皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。そしてまたいつかお会いできたらよろしく願います。本当にありがとうございました。

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 48

氏名 高島 伸介

2015年が初出場でそれから開催7回連続で出場させていただきました。7回走らせてもらいましたが、結局一度もいい走りが出来ずにさくら道が終わってしまい残念です。

その中でも嵐の2016年と昨年のさくら道が特に印象に残っています。

2016年は前年初出場で完走して様子もわかってさらにいい記録をと意気込んでの参戦でした。にもかかわらず日が変わったあたりから走りが怪しくなり、どんどん失速してそのあたりで風もどんどん強くなって行って兼六園が遠いと感じていました。私が回収車にピックアップされたのが大鋸屋へ向かう坂の途中でした。天気のこともありましたが、それ以上にこれから先の行程を考えて正直ほっとしたのを今でも覚えています。

2023年はコロナで3年開催がなく4年ぶりのさくら道で意気込んでエントリーいたしました。その間に4歳年を取ったということもありますが、4月に入って故障で全く走れず、本番ぶっつけのような状態でスタートラインに立ちました。故障も100%完治してないのでレース早々よりメンテナンスして頂き何とか兼六園までたどり着きました。

何事もなく完走したことより苦しかった時ことの方が記憶残っています。道中何度も体を診て頂いたり、周りの選手と励ましあいながら走ったり、エイドで声を掛けて頂いて頑張れたり自分の力だけではない力で兼六園にたどり着いた気がしています。

今年は運営上白鳥までのハーフでの開催となり250kmとはまた違ったレースでした。例年よりはペースがかなり速かったと感じました。そして白鳥まで14kmの看板を見て、ゴールが近くなり嬉しいという思いの反面、あと少しでさくら道が終わってしまうという少し寂し気持ちにもなりました。そして白鳥の街中に入ってから住民の皆さんから声かけがとても嬉しかったです。

大会実行委員の皆様、約30年間運営お疲れさまでした。ボランティアや関係者の皆さん、そして選手の皆さん、ありがとうございました。また新たな復活の機会があればなんらかの形で参加したいと思います。

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 49

氏名 高田美由紀

私にとって最初で最後のさくら道国際ネイチャーランが終わりました。この大会を走らせてもらえることになり、前日の金曜日は、開会式・オリエンテーションに出席するために仕事をお休みさせていただきました。職場のみなさんの理解があつてのことです。ありがとうございます。そして、快く送り出してくれた3人の子どもたちにもありがとうございます。気持ちでいっぱいです。

以前から大会の名前は知っていましたが、私にとっては、「すごいランナーが走る大会」でしかありませんでした。250kmを36時間以内に走るということは、過去に山口県の萩往還道250kmの部を45時間台で完踏した私にとっては、かなりハードルが高かったです。そんな私が、昨年初めて参加申込書を出しました。結果は補欠の8番。内心ほっとしたような、がっかりしたようなとても不思議な気持ちでした。これから毎年参加申込書を出してみよう！と思っていましたが、今年で大会終了になることを知りました。夜間走が無くなり、半分以下の距離になりました。最初で最後のさくら道国際ネイチャーランを絶対に走りたい！という強い気持ちが事務局に届き、選考していただきました。選考してもらうために、阿賀ウルトラと赤穂ウルトラの2大会は、完走時間の目標を決めて一生懸命走りました。頑張った結果が、選考に繋がったと思います。

大会趣旨の素晴らしさは、「さくら」という映画を観たり、過去の大会に何度も参加して走られたランナーの方々からお話を聞かせていただいたりして共感するものがありました。佐藤良二氏の生き方は、現在の自分の生き方に似ている部分があります。「人の喜ぶことがしたい」と思って現在の仕事に就きました。できなかったことができるようになる喜び。そして、生徒の笑顔を見るために、いろいろな支援を考えて実践することが私の喜びです。

名古屋城から郡上市白鳥町までの約110kmを無事に走れた（後半歩きましたが）のは、21ヶ所のエイドを設けてくださった事務局やスタッフのみなさん、沿道の応援、一緒に走ったランナーのみなさんのおかげです。たくさんの人たちに支えていただき、最初で最後のさくら道国際ネイチャーランを無事に終えることができました。槍の完走証、一生の宝物にします。参加させていただき本当にありがとうございます。

奈良県 高田美由紀

さくら道は5回目の参加。今回は最後のさくら道。最初は憧れの大会だった。参加していくうちに憧れが好きに変わっていった。さくら道はただ走るだけの大会ではなかった。今回も沢山の人に支えられ応援していただき、走ることができました。ありがとうございました！

最後のさくら道は「名古屋城～白鳥～佐藤良二さんの顕彰碑～白鳥」の110キロ。

例年だと「名古屋城～白鳥～荘川桜～兼六園の佐藤桜」の250キロ。

今回は白鳥より先に進まなかったが、いつもコースでは通らなかった佐藤さんの顕彰碑に行けたことは嬉しかった。沿道から声をかけてくれる人、車から声をかけてくれる人、毎回エイドにつくたびに沢山声をかけていただいた。さくら道でいつも白鳥より先で会う人たちも今回応援やボランティアで来てくれた人もいた。さくら道はコースはきついけどいつも優しさにあふれている大会。きつくても笑顔になる。

コース上で人に会い景色を見て自身の足で走る。頭では覚えていなかった小さなことも走っていると思いだしていく。色々なことを体が覚えていることを感じた。初めてさくら道を知った日から今までを思い出し、この大会に関われたことに感謝をしながら一步一步進んだ。

最初にマラソンをはじめたのは、年齢、職業、国籍、性別、他にも色々なことは関係なく走ることが好きな人と繋がりをもち話せることが楽しかったからだ。色々な大会に出て、ランも色々な楽しみ方があることを知った。考え方は人それぞれだけど、自分がこうありたいなと思う考えはあった。

さくら道では沿道の方々、スタッフ、ボランティア、ランナー、関わる全ての人たち、自分がこうありたいと思っている人達が沢山いた。佐藤良二さんの気持ちが色々な場所で受継がれていた。大会がなくなってしまうのはとても寂しいけど、佐藤さんの気持ちを受継ぎ、さくら道で受けた優しさを思い出し、自分がこうありたいと思っていた人に近づけるように日々頑張っていきたい。

さくら道に関わる全ての皆様、本当ありがとうございました！！

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 51

氏名 高橋 裕子

最後とは思ってない。

そんな気持ちで走った LAST RUN

苦しい時も 弱音 吐いた時も 支えて下さったスタッフ。

車の内側から 家の前から 窓の中から。 たくさん応援して
下さった皆さん

さくら道の歴史を語りながら 一緒に走ってくれた
たくさんランナー仲間

また会いたいのさ とうとうは言いません。

また会いましょう!!

See you again soon !!

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 52

氏名 竹尾 利行

30年の歴史あるさくら道国際ネイチャーラン最後の開催になります

本大会に参加させていただき、ありがとうございました。

完走を目指して、スタートラインに立ちましたが、ランナー仲間、

ボランティアの方々、スタッフの方々に応援していただきましたが、

完走をする事はできず不甲斐ない結果、みっともない姿で終わってしまいました。

2006年にさくら道デビューですが、その間完走あり、リタイアありでしたが

参加させていただくことで、多くの人との出会い色々な体験をさせていただきました。

本当にありがとうございました。

新型コロナウイルスが完全に終息しない状況の中、開催してくださりありがとうございました。心温かいサポートのおかげでゴールすることができました。重ね重ね本当にありがとうございました。

今年の大会要項を見た時、最後の大会は距離が 110km でゴールは白鳥町となり荘川桜や金沢兼六園の佐藤桜を見れず残念な気持ちでした。しかし、2月に怪我をしまい練習がほとんどできなかったのも、もし、例年通り 250km だったら完走は困難だったでしょう。また、兼六園のゴールは通路にあるため長居することができず後続のランナーを出迎えることが出来ませんが、今回は最終ランナーのゴールを大勢のランナーで出迎えることができ、大いに盛り上がりました。こういう形も良いですね。

私がこの大会を知ったのは 1999 年でした。距離 250km 制限時間 36 時間で書類選考のあるエリートランナー向けの大会。当時の私は一般的な 100km ウルトラマラソンでさえ条件が悪いとリタイアしていました。その倍以上の距離のさくら道を走りたいという気持ちは微塵もありませんでした。しかし、生死を彷徨う事故に遭ったことを機に、今死んだら挑戦しなかったことを後悔してしまうようになりました。ちょうどその年に NHK で「桜紀行～名金線・もうひとつの旅」というドキュメンタリー番組が再放送され、番組の後半にこの大会の様子が紹介され、さくら道へ挑戦しようと思ったのでした。練習量を倍に増やし、さくら道への切符と言われたスパルタスロンに挑戦し、完走したのでした。

さくら道にたどり着くまで長い年月を要しましたが、2006 年にエントリーし書類選考も通り 2007 年に夢がかなって参加させていただきました。そこで感じたのは決してエリート向けの大会ではないということでした。各エイドは長居してしまいそうなくらいアットホームな雰囲気です。リピーターが多い理由がよくわかりました。エイド数、提供される食物の種類、マッサージ、緊急時の対応など、日本一レベルの高い大会だと思います。

大会を走る前まではスパルタスロン同様、一生に一度走れば良いと思っていましたが、ゴール後にはまた走りたいという気持ちに変わっていました。以後、私の中では年中行事となりました。途中、2回エントリーできなかった年があったり、エントリーしたものの遠征当日に仕事のトラブルが発生しドタキャンせざるを得なかった年もあって、実際に参加したのは 12 回でした。寒さ、暑さ、強風、大雪、故障を抱えの参加など厳しい条件下やトラブルを抱えてもリタイアはゼロでした。そうさせてくれたのは各エイドのボランティアによる心温かい応援と手厚いサポートのおかげです。

大会実行委員の皆様、一緒に走ったランナーの皆様、ボランティアスタッフの皆様、今まで本当にありがとうございました！

今回で最後となってしまいましたが、違う形でいつか復活する日を信じています！

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 54

氏名 竹本 晋一

さくら道ネイチャーラン、夢をありがとう

自分が“さくら道”にはじめて出場できたのは2023年。今回で2回目の出場で、諸先輩の方々と比べるとまだまだ新参者。ですが、名古屋から金沢まで250kmを走るという当時の理解を超えた大会があることを知ったのが20年前。そんな壮大な大会に出てみたいと思ってはいたけど出場叶わなかった20年間、出場するために走力向上に取り組んだ20年間は、諸先輩の方々と同様に自分の中のどこかはずっと“さくら道”と共にありました。“さくら道”が「できるわけない」と思っていた遠い目標にチャレンジする勇氣を持たせてくれ、少しずつ積み上げていけば「できるわけない」と思っていたことでも「できる」ようになるという体験を与えてくれました。“さくら道”という大会を長きにわたり大会を催し、たくさんのランナーのチャレンジを受け入れていただいたことに本当に感謝します。なんとか間に合いましたよ。

故佐藤良二氏が「人の喜ぶことをしたい」と太平洋と日本海を桜のトンネルで結ぼうとしていた“さくら道”。去年と今年、“さくら道”を走る中で自分にとっての桜の木は5kmおきに日本海までつながるエイドでの暖かいおもてなしと沿道からの熱い声援でした。

コースを走っていて向こうのほうにピンクの上着が目に入ると心がときめき、「お疲れ様～、ナイスラ～ン」という声が聞こえてくると張っていた心がほっとします。エイドに入るとボランティアの方々の気配り、明るい笑顔、温かい声援をいただき、気持ちをリフレッシュして、また次のエイドに向かう気持ちを奮い起こすことができました。

また沿道では、庭先の子供たち、下校途中の中学生が「頑張ってください。」少し離れたところの畑で作業をしている人、工場で働いている人も「頑張って～」と大きな声で応援してくれました。そんな声援にはもう精いっぱい大きな声で「ありがとう～」と応えるくらいしかできないです。ゴールの白鳥に近づいたころ、おばあちゃんが悲痛な面持ちで「ここまで来てくれてありがとう。いつも走ってくれてありがとうね。」なんてこと言うために駆け寄ってくれては、「いやいや、そんなとんでもない。こちらこそ走らせてもらってありがとう」と恐縮するばかりで、もう感涙です。

故佐藤良二氏が“さくら道”に桜を植えて人を喜ばせようとした気持ちと、“さくら道”を走るランナーをサポートし応援してくれた方々の気持ちは全く変わるものではないですし、さくら道ネイチャーランを30年間継続して開催したこと自体が、故佐藤良二氏の遺志を正しく受けついただことだったと思います。

“さくら道”は他の大会以上に、参加する誇らしさや幸福感を感じる大会でした。なので“さくら道”がなくなると他の大会が代わりになるわけでもないのに、“さくら道”が終わりを告げてしまうことは率直に残念です。でも“さくら道”が与えてくれた「できるわけない」と思っていることにチャレンジするマインドを持ってこれからも新しいチャレンジを続けていきますし、自分も“さくら道”で多くの方に支えてもらったのと同じように、これからは他のランナーを応援・サポートする側にも参加していきたいと思っています。

さくら道ネイチャーランのおかげで人生が彩りました。本当にありがとうございました。

ゼッケンNo. 56 氏名 舘坂 秀明

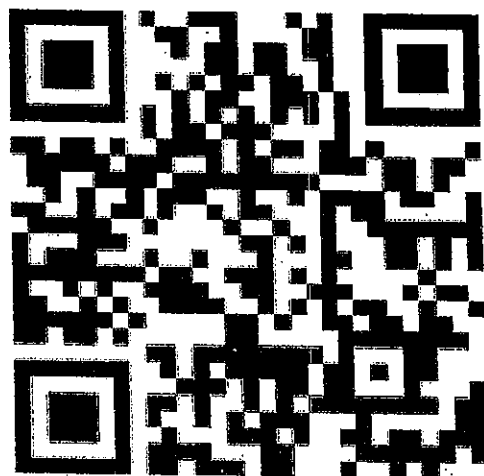
このたびは最後の「さくら道国際ネイチャーラン」を走らせていただき誠にありがとうございました。

私にとって本大会は夢の舞台であり、人生の目標でした。これで最後となるのはとても寂しいですが、感謝の気持ちをこめてゴールのテープを切れたことは、ウルトラランナーとしてひとつの区切りとなりました。

僭越ながら、今回の110kmの道のり、その道中の様子をカメラで撮影し動画にまとめましたので、よろしければ下記のQRコードを読み取ってご覧ください。
1時間ほど、ランナー目線でさくら道を走る内容になっています。

これがみんなに愛された「さくら道」を後世に伝える資料のひとつになれば幸いですし、こちらをもって、有終の美を飾る一翼を担えたのであれば本望です。

関係者の皆さま、ここまで本当にありがとうございました。
改めて感謝申し上げます。



最後のさくら道国際ネイチャーランの開催、本当にありがとうございました。
今回のレースを開催するために準備と努力、また葛藤があったと存じますが、開催を決断していただいたスタッフ・関係者の皆様には心から感謝いたします。最後の大会も私たちランナーを常に選手本位でサポートしてくださった沢山のスタッフ・関係者の皆様のおかげで、常に楽しみながらコースを満喫して走りきることができました。今でもエイドやコース沿道の人々の笑顔の数々が思い起こされます。

今年は半分以下の距離でしたが、コースの終盤に佐藤良二さんの故郷の大きな顕彰碑に触れることができ、大会の大元の意義を思い起こされてとても感慨深い経験をさせていただきました。昨年は兼六園まで走らせていただきましたが、白鳥町でのゴールはそれ以上にとても感動的で記憶に残るものになりました。翌朝は佐藤さんのお墓参りもさせていただき、これまでさくら道を走った多くのランナーや、佐藤さんの遺志を継いでこられた多くの方々とつながれたような感覚を感じました。

初めてさくら道に出たいと思った12～3年前から、出場資格を得るまでにとても時間がかかり、2回しか出場できませんでしたが、長年ロマンが積み重ねられたレースがこうやってなくなるのは大変寂しく感じます。またどんな形であれ、さくら道のロマンを継承する大会がいつの日か復活する事を願います。

ゼッケン No.59 氏名 田中勝

まずは この大会に 30 年間、かかわった多くの方々 大会実行委員、協賛会社様、スタッフ、ボランティア、そして沿道にて応援いただいた皆様、一緒に旅したランナーに感謝させていただきます。

2019 年に初めて参加させていただいた時、“自分が佐藤さんの意思を持って金沢まで走るんだ” 思っていたのですが、終わってみれば実際には関わっていただいた多くの方々と旅をさせていただいたことに気が付きました。

今回の LAST RUN も 皆さんと共に旅をしたいとエントリー。

当日は天気に恵まれエイドを堪能し、また景色を楽しみながら皆さんと旅をさせていただきました。

桜は 一部葉桜になっていましたが、佐藤さんの意思を受け継いだ桜かな？と思いながら

今回の旅で気が付いたのが 桜に負けないほどピンクのシバサクラ。

国道 156 号線沿いの公園、道路際、家の庭など多くの場所に、通りゆく人が楽しめるように植えてありました。このさくら道のコース 皆さんが いろいろな形で旅する人を応援してくれているんだなど。

LAST RUN でありましたが、次の旅ランへの START RUN

さくら道国際ネイチャーランのような旅ができるよう、これからも旅 続けます。

ありがとうございました。

2024 年 4 月 24 日

4/21 (日)

閉会式と懇親会も終わり、完走できなかった3人乗り合いの車で帰路についた。
白川郷までは本コースをトレースすることになった。必然的に莊川桜も立ち寄る。

咲いてない。

いや、いつものように時期が早いのではなく、早くから咲いたが花自体が極端に少なく、もう散ってしまったのだという。

桜が咲かなかった（完走できなかった）私達に合わせてくれなくても良かったのに。

どうして自分は完走できなかったのだろう。

10年前も、今回も。

回想録を書いても、完走した人たちのことを考えるとみじめなことしか書けない。

じゃあ提出しなくてもいいか。

そんなことばかり考えて1ヶ月あまり。回想録の締切日を迎えた。

そうだ。

みじめなことじゃなく、ポジティブなことを書けばいい。

- ・自分からリタイアは宣言しなかった。（関門時間まではあがいた）
- ・自分のスタイル（ウルトラマン）で走った。
- ・10年前より参加者に仲間が増え、少し同窓会気分を味わえた。
- ・少し背筋が伸びるような、それでいて居心地がいいような、この大会独特の感覚をまた味わい、少し楽しむことができた。
- ・10年前にリタイアしたことをきっかけに多くのレースを知り、出走することでかけがえのない仲間と経験を手に入れることができた。

いろいろ書いてみたけど、やっぱり完走したかったな。。

分割でもいいからセルフサポートで走ってみようかな。

1日目は郡上八幡まで。郡上八幡観光も少ししてみたい。

2日目は白川郷までか。宿はあるのか？！

そして3日目で兼六園まで。

本レースに比べるとゆるいようだけど、これが10年前にティエリーさんから聞いた言葉

「あなたのさくら道」に該当するのかもしれない。

もう少し検討してみよう。

お楽しみはこれからだ。

関西の桜も散った4月中旬、郡上の桜を見に行く事が近年の我が家の恒例行事となっていました。

ウルトラマラソンを始めた頃からの憧れであり目標であった「さくら道国際ネイチャーラン」

私は2017年以降8年間で行われた5回の大会全てにランナーとして出場させていただき、全て完走という実力以上の結果を出す事ができました。出場させていただく以上、必ず完走しなければならないという強い意志があったことはもちろんですが、日中夜問わず我々ランナーを安全に走らせる為ご尽力いただいたスタッフのみなさんや共にゴールを目指したランナーとの励ましあいの賜物と思います。

初出場の際の喜びと緊張感は今でも忘れられませんし、眠さ、寒さ、吐き気等々辛い記憶もこの大会の良い思い出のひとつです。そして何よりこの大会で出会えた方々との絆はこれから大切に繋げていきたいと考えております。

毎年スタッフの確保に苦慮しておられるという話は聞いており、また走りながらもそれを感じてはいましたが、本当にこんなに素晴らしい大会が終わってしまうという事は大会が終わって1ヶ月経った今でも受け入れられずにいます。

この大会が終わることを受け、長距離の大会はもういいかなと思った時もありましたが、いつの日か佐藤良二さんの意志の元、またみんなでさくら道を走れる日が来ると信じて、もうしばらく走る練習は続けようと思います。

本当にありがとうございました。

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 65

氏名 中田和彦

ただ走るのが好きな一人の人間のために、本当に沢山の人が支えてくださっているこの特別な大会が本当に好きでした。今回の結びの大会でさらに好きになりました。100名のランナー、運営委員会の方々、郡上市役所白鳥振興事務所の方々、ボランティアに来てくださった方々、郡上市の方々、講演頂きました中村儀朋氏に感謝申し上げます。

さくら道の原点である佐藤良二さんにまつわるお話をじっくりお聞きでき、また、佐藤さんのご兄弟やご家族の方々、さくら道に関わられた方々の活動の一端をお伝えくださり、ありがとうございました。さくら道を走る者として、今回は、以前よりも沿道の桜の木を通して、感じ入ることの多い道中となりました。中村儀朋氏の『さくら道』を読みつつ、神山征二郎監督作品『さくら』を観つつ、本大会の私の中の『さくら道』の思い出をさらに深めています。

最後のさくら道の道中では、沿道で応援してくださる人々の今までを超える温かい「ひとの道」が最も嬉しく、この一時が本当にかげがえのない瞬間でした。さくら道を走り終え、少しずつ時間が経ってまいりましたが、その思い出の数々が今も少しずつ私の中で根を張り、少しずつ枝を伸ばし、少しずつ私に変化をもたらしている様子が確かに感じられます。

『さくら道国際ネイチャーラン』を通じてご縁をくださり、本当にありがとうございました。

ゼッケンNo. 66 氏名 中西 友紀

さくら道ラストラン、参加させていただき、ありがとうございました。大会関係者、スタッフの皆様、共に走った選手の皆様のおかげで、生涯、心に残る清しい思い出を作ることが出来ました。

来年以降も、もっともっと、この夢いじり地なひとときを皆様と過ごしたかったので、それが、もう叶わないと思うと、残念でなりません。

さくら道、佐藤良二さんから、自分なりに感じ受かった想いをこれから、今後の人生、マラソンに活かしていきます。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 68

氏名 西川 昌志

2024 さくらみち国際ネイチャーランを13時間2分で完走することができました。

本大会では、最後に佐藤良二さんの顕彰石碑にタッチした時、これまでのさくらみちでの思い出が蘇ってきました。

とりわけ私が印象に残っているのは、2019年のさくらみち開会式の時に、大会副会長の太郷さんからおっしゃられた言葉です。

「さくらみちの選手の選考基準があるとするは、それは、

Passion & Sympathy (情熱と共感) である。」

大会を終えて今、ラストさくらみちを走ったランナー、並びに大会関係者、ボランティアスタッフ、全ての方々が佐藤良二さんへの共感を持ち、さくらみちに対する情熱を持っていたと強く感じました。

本大会は、今年をもって終了してしまいますが、

さくらみちは永久に不滅です！！

これからも、私たちランナーで、さくらみち愛を絶やすことなく育んでいきたいと思います ♡♡

長い間、本当にありがとうございました。

2024さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 69 氏名 丹羽一幸

さくら道国際ネイチャーランはずっと羨望の大会でした。自分は250kmを完走する体力や精神力を持ち合わせていないと諦めていました。

ところが今回はランストランで白鳥ゴールの110kmハーフとするWEB発表を見て、思わず参加者募集に早速申し込みました。100km超の大会経験はありませんので取り敢えず100kmマラソン大会の記録を付記しました。選ばれるのは難しいと思っていました。

あまり期待していなかったところに1月下旬、参加決定通知書が届いて嬉しいと同時にびっくりしました。それから参加料を指定金融機関に振り込みました。

その当時、1月と3月にフルマラソン大会を入れていましたので、それが終わってからロング走(50km)やコース試走と思っていました。3月まで会社勤めだったので土・日しかなくそこへ酒蔵巡りマラニックに参加したりして十分な練習をしていませんでした。4月に入ってから1回目コース試走(4/2 関市から白鳥町まで 57km)と2回目コース試走(4/12 名古屋城から一宮まで 19km)を実施。今まで100kmマラソンの練習は2、3ヶ月前から50km走を4回程度踏んでから大会参加していたので2月、3月の練習不足を感じていました。

こうして4月19日(金)の開会式・オリエンテーリングを迎えました。初めての開会式は少し緊張と高揚感を感じていたように思います。参集した100人のランナーの中には見知っているランナーも少し見えました。(K田さん、H野さん、K納さん、K島さん、I村君、等々)

翌4月20日(土) 自分の出走4組は5時09分スタート。ウェストバッグにはお金、塩分タブレット、芍薬(足吊り防止)、反射タスキ、走行ペース表を入れてある。完走を目標に前半は6分30秒～7分/kmのペースを意識して走るも、一宮あたりでは速いグループについてしまい時計を見てペースを戻す。応援しているS山さん、うーさん、夜っ君の姿を確認して元気をもらう。

木曽川を渡って岐阜市に入る。No.9エイドでは通算ペースは6分30秒台だが区間ペースは7分18秒/kmにダウンして、やや脱水気味かな。段々日差しが強くなったような感覚の中、No.10 エイドの関市ローソンで選手をサポートするK路さんをはじめ皆さん、ありがとう。No.13 エイド(第1CP)道の駅 美並ではランナー春日井のH野さん、T屋さんが応援に駆け付けていただき、ありがとうございます。水分補給や食料補給するも通算ペースは7分/kmにダウン。足吊り防止の漢方薬を飲む。

けいれん気味のため歩きが入るようになり No.16 エイド(いたち坂パーク)では通算ペースは7分20秒台/kmになり、さらに漢方薬を服用するが No.17 エイド(郡上八幡駅)で両脚マッサージ施術をしてもらった。その後足が回復することはないとほとんど走られずに、No.20 エイド(第5CP)を 18:14 に通過した。走れない無念さ、悔しさを抱えて歩を進めたが白鳥振興事務所手前の交差点で止められSTOP、佐藤良二顕彰碑には行けなかった。結果はタイムオーバー(DNF)でした。

反省はやはり練習不足と暑さ対策が不十分であったことです。また、ゴール地点で気分が悪くなってしまい、周りの方々にお手数をお掛けして申し訳ありませんでした。その日の宿は角忠旅館で食事がとても良かったのですが、内臓の働きが良くなくあまり食べられませんでした、残念至極。

大会実行委員会の皆さん、各エイドのサポーターの方々、そして応援に来ていただいた皆さん、ありがとうございました。

2024.5.28

走り初めてから憧れとなった「さくら道国際ネイチャーラン」。
ボランティアを経て2019年に選ばれて完走。
コロナ後の2023年にはボランティアをしていた200キロ地点の40番エイドの五箇山の上でリタイア宣言をしてしまいました。

今年のラストのさくら道国際ネイチャーランは110キロということもあり、確実に完走できるものと過信しておりました。
コンディションも決して悪くありませんでしたし。
それが災いしてしまったのか？脚が動くため自分にとってはややオーバーペースだったようでした。
その上補給も最初こそはしていたものの、次第に固形物をとらなくなり、ほとんどカロリーの無い水ばかり。
胃が受け付けないわけでもないのに。
どうも気持ちばかりが焦っていたようでした。
そのうち次第に走るのに力が入らなくなるばかりではなく、オーバーナイトでもないのに睡魔に襲われ脚が前に進まなくなっていました。
抜かした人にどんどん抜かされ第4チェックポイントの八幡信用金庫大和支店の97.7キロ地点で、制限時間に間に合わないのを理由に自らリタイアしてしまいました。

どうも低血糖だったようでした。
今になればいろいろと反省するべき事がありますが、これも私の実力。
その後ゴール地点まで自動車で運んでいただきました。
既にゴールされた方、そしてゴールを出迎えられている皆さんの笑顔は眩しいほど輝いていました。
私もその中の一人でありたかった。
正直悔しかった。
せめて止められるまで進めば良かった・・・・・・
しかし、悔しさから次第に参加させていただけた事がありがたく思えてきました。

それから10日ほどしてから、女子2位でゴールした大平美佳さんから岐阜駅から白鳥町まで一緒に走ろうと誘っていただきました。
スタートの名古屋城ではありませんが、さくら道国際ネイチャーランへの感謝のランであり、私にとっては行くことができなかった「佐藤良二さんの顕彰碑」を拝むラン。
関市では歩道に書かれていた桜の花びらから元気をいただいたものですが、それがまだうっすらと形がわかるように残っており感激。
エイドでお世話になった懐かしい場所を通過する度、ボランティアスタッフさんはいらっしゃらなくても、その時の記憶がよみがえり感謝と共に懐かしさでいっぱいになりました。
郡上八幡駅からは都合により私の一人旅となりました。
私もそこでやめようかとも思いましたが、背中をおしてくれたため意を決して行くことにしました。
顕彰碑が近づいても、当然案内してくださるボランティアさんもしゃらなければ看板もないため、スマホを調べながらも不安になりながら前に進みました。
急な坂を上りながら佐藤良二さんの顕彰碑が遠くに見えた時には感動でいっぱいになりました。
「ここまでこれで良かった。」
私にとっては2週間も遅いゴールとなりました。
実行委員の皆さま、伝説に残る素晴らしい大会を長年運営していただきありがとうございました。
こんな素晴らしい大会に参加させていただけたことは誇りです。

ゼッケン No.71 氏名 服部 隆充

2014 年以降 7 回出場、土つかずで任務を全う出来た事で得た事を書き記したいと思います。

一番の変化は、自分自身の気持ちが『楽しいさくら道』から『佐藤桜まで辿り着く責任』へと変わりました。周りの見る目が懐疑的な中での初出場のさくら道では、想像すら出来なかった皆さんの見立てが『完走出来たんだ！』から『完走は当たり前！』に 10 年間で完全に変わりました。続ける事の大切さ、結果にこだわる重要さ、ここ一番の頑張りが如何に大事なのかを思い知らされました。そして、出来ないであろうと思われた人間でも結果を出し続ければ、人からの評価は、こんなにも変わるものかと実体験出来ました。

ただ、その結果を出すのも次第にシンドクなって来たなあ～と言うのが、ここ数年の自分の状態でした。2 年前に別大マラソンの参加資格を失い、フルマラソン、ウルトラマラソンの大会に出場すれば途中リタイアの結果ばかりの状態が続き、気持ちを奮い立たせ、さくら道だけは絶対完走の思いで何とか凌いできたと言う感じです。よって大会当日も景色を見て楽しむ余裕も無く兎に角、完走しないとの思いで足を進めた次第です。そんな中でも、エイドの方の手厚いサポート、応援下さる方のエール、一緒に走ったランナーと励ましあい前に進めた事、全てが一体となり、さくら道特有の皆でゴールを目指すと言う感覚を毎年味わえた事は、何もののにも代え難い貴重な経験でした。

そんな思いが一杯詰まった、さくら道国際ネイチャーランが今年で最後と言う事は非常に残念ですが、自分自身が、最近、綱渡りの状態だし！ぼちぼちアカンかなあ？との思いも頭をよぎり出したので内心、今回で最後と言う事でホットしたと言うのが正直な気持ちです。実際、今年走ってみて、今回は 110 キロでしたが今まで参加した、さくら道の中で一番キツイと感じました。

今後、僕を育ててくれた、さくら道国際ネイチャーランが、何らかの形で継承されるのであれば携わって行きたいと思います。長い間、大会を支えて下さった大会実行委員の皆様、ボランティアで携わって下さった方々、応援して頂いた方々、本当に素晴らしい大会を有難うございました。お陰様で、夢にまで見た、さくら道国際ネイチャーランに 7 回も出場させていただき色濃い 10 年間を過ごす事が出来ました。本当に有難うございました。『感謝！』

この度は、2024さくら道国際ネイチャーランを開催頂き有難うございました。

前日の受付から開会式の日は、とても風が強く、明日の事を心配しましたが、大会当日は、晴天で暑くなる予報。今回は、いつもの距離と違い、半分以下の距離を制限時間内走るという大会で、今の自分の走力から考えるとおそらくかなり頑張らないと制限時間内完走は厳しい状況かと。

時間内完走を目指すにあたり、エイドを速やかにする事。次に歩かない事。この二つの課題を決めて走る事にしました。序盤は、やはり皆さんのペースが速く、一生懸命について行くのがやっとなで口数も段々と少なくなりつつ、最初のエイドステーションに到着。速やかに給水のみで走りだす。このような事を繰り返してチェックポイントに向かうが、徐々にペースは落ちてきて、途中一緒に走る方が、地元の方でこの辺りをいつも走ってる等と会話で和み、気持ちよく走れる場面もあり後半へと足を進めていきました。70キロを過ぎた辺りで、足が止まるようになりだすも、懸命にこらえ、歩き走りでここからは、K/8'30迄ペースが落ち、関門時間と距離との計算で、頭がグルグルと回り、関門時間に、1時間30分近く余裕ペースも終盤になるにつれ、1時間を切るペースとなり、徐々に焦りが出始めました。

完走が今回の一大目標であるのと、最後のさくら道への思いを向け最後の関門をなんとか、1時間前に通過。このままペースを維持して走ると完走できるところまで走ってこれました。最後、ゴール手前のエイドで元気を頂き、今回初めてとなる「佐藤良二様」記念碑に向けて力を振り絞りました。

事前にPCでコースの学習はしていて、かなり上りが続きますが、歩かず記念碑にたどり着いたときには、とても安堵感がわいてきました。上りコース途中で、折り返してきた顔馴染みの方に、もう完走大丈夫と声かけを頂き、とても力を頂き頑張れたように思います。そして、記念碑に手を添えて、ここからラスト下りをゴールまで駆け下りるだけです。やっと終わりを迎えるのと、完走できる事とが重なり、少し寂しく思えました。

関門時間の24分前に無事ゴールが出来て、なんとか大会を完走で終える事が出来ました。翌日、念願の完走盾を頂いたのをとても嬉しく思います。

最初で最後の完走となりましたが、選手やスタッフの皆さん多くの方が温かく、楽しく、人とのつながりも数多く感じる事がとても良かったと思いました。これが最後となるのがとても寂しい限りです。長年携わってこられた皆さんに感謝致します。

有難うございました。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 73 早坂 研

さくら道国際ネイチャーランには2019年、2023年と今回の3回参加させていただきました。最終回となる今回もいつもと変わらない、温かいおもてなしをしていただきました。走っている最中はいかに苦しかったはずなのに、思い出すのは楽しい場面ばかりなので不思議です。

2019年の初参加以降、すっかりさくら道の魅力にとりつかれました。1年の中心に「さくら道」があり、それ以外の日々は「さくら道」に向けた鍛錬といった感じです。残念ながら初参加の翌年からは、新型コロナウイルスの流行により大会の中止が続きましたが、「さくら道」の開催を信じて走り続けました。これだけ夢中になれるものに出会えたということは、本当に幸せなことだと思います。

初参加の前からさくら道国際ネイチャーランには特別な思いがありました。2019年に初めてさくら道に挑戦したときに書いたメッセージです。

「2006年の春、私は結婚して沖縄での新婚生活を始めるため、当時勤務していた飛騨市から、経由地の名古屋に向かいました。その時に通ったのがこの道でした。飛騨は吹雪でしたが、名古屋は桜が満開でした。目まぐるしく変わる沿道の風景をみて、不安と期待でいっぱいでした。あれから12年が経ちました。あの時はまだ、自分1人での旅でしたが、今は妻と3人の子供がいて、もうすぐ4人目が生まれます。東日本大震災の後、被災した地元で働くため、家族を連れて沖縄を離れ、故郷の宮城に帰りました。自分と家族のこれまでの歩みを振り返るため、あの頃の気持ちを思い出すため、今の自分の出発点となったあの道を、今度は自分の足で走ってみたいです。」

人それぞれ、自分の思いでとともに大切にしている道があると思います。この大会に関わった皆さんにとってそれは、きっと「さくら道」でしょう。大会がなくなっても「さくら道」はそこにあります。今度は家族と一緒にさくら道をたどる旅をしてみたいです。

ありがとう、さくら道。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 74 氏名 日置 和徳

自身としては2019以来5年ぶり、10回目のさくら道でした。

～THE LAST RUN～と銘打たれたこの最後の大会を走れる喜びを胸に早朝の名古屋を走り出します。何度も見た風景、ランナーと声を掛け合いながら走るこの感覚、行きかう車からの声援の声、エイドでの温かいもてなし。またここに戻って来たんだなと感慨深くなります。

実は今回大会直前にコロナに罹ってしまったせいで満足な練習ができないままスタートラインに立ちました。いつ足が止まってしまうか不安なままでしたが、美並のチェックポイントまで順調に走れて時間にも余裕ができたので、そこからは今までのさくら道を振り返りつつ一步一步かみしめながら走りました。

おもえば、さくら道に初参加してからは常に1年の中心にこの大会があったような気がします。初参加の時は只々無我夢中で完走したのを覚えています。その後もたくさんの人と出会いやいろいろな経験を得て、このさくら道がかけがえのないものへとなっていましたし、自分自身の成長にもつながったように思います。

白鳥振興事務所前を通り過ぎ佐藤良二さんの顕彰碑までの往復の道ではすれ違うランナーとエールを交換しながら走りゴールにたどりつきました。ゴール後にランナー同士で健闘を称えあう姿、名残惜しそうに最終ランナーを迎える姿を見て。これで本当に終わりなんだと胸が熱くなりました。

このさくら道国際ネイチャーランは終わっても、僕らの中に残った佐藤良二さんの思いはなくなりません。そしてなにより、こんなに楽しいものが在ったということ伝えていきたいし、多くの人に体験してもらいたい。そのためにできることをこれからは考えていきたいと思います。

最後になりますが、これまで大会を支えて下さったスタッフ関係者の皆様今まで本当にありがとうございました。

さくら道国際ネイチャーラン（以下、「さくら道」）に6年ぶりに参加しました。今年の大会は特別なものでした。選手だけでなく、参加者のおひとりおひとりが思いを胸に抱き、全員が主役でした。名古屋城正門に一礼する小谷康浩選手の姿、仲間を悼み喪章をつけて走る選手たち、地域の皆さまや子供たちによるボランティア運営と沿道からの声援、顕彰碑を加えた難コース、内記淳司 様のゴールアナウンス、小学生の応援メッセージ、選手たちの寄せ書き、実行委員の皆さまへの花束贈呈、そして前市長への完走証授与など、始まりから終わりまで感動の連続でした。

私は大会が最後となる知らせに、衝動で身体が震えました。最後に感謝を伝えたいという熱い思いが湧き、参加を決意しました。私がさくら道を知ったのは2009年4月。1番にゴールした選手との偶然の出会いがきっかけでした。当時は「いつか出てみたい」という漠然とした思いしかありませんでした。その後、何度も自分と向き合う中で掲げた目標が、夢の舞台さくら道でした。2014年春、補欠合格からご縁をいただきました。初めてのさくら道は、皆さまの温かい支えにより、無事完走することができました。大会の趣旨に共感し、運営の素晴らしさに感動して2018年までの5回、ご縁をいただくことができました。

さくら道は、回を重ねるごとに私を成長させ、人生を豊かにしてくれる素晴らしいものでした。人の優しさや温かさを受け、心と心が通じ合う喜びを実感しました。佐藤良二さんの遺志は、大会を通じて多くの人と触れ合う中で、学び得られるものでした。偶然の出会いからさくら道を知り、憧れて努力した日々。そしてご縁をいただいて参加できた喜び。共に励まし合い、支え合いながらたどり着いた佐藤桜。大会の成功を共に喜び称えあう感動。これらの全てが心に深く刻まれました。人生における貴重な経験をすることができました。

私は、このようにさくら道で学んだ素晴らしい経験を、より数多くの人に伝えていきたいと思っています。なぜなら、さくら道は私の人生が変えたからです。さくら道にしかない魅力があります。30歳の時、原因不明の難病にかかりました。社会復帰も難しいと思いました。その私がさくら道に挑戦することができたのです。その経験を経て、今の自分がいます。さくら道は私の矜持です。自己と向き合い、熱意を持って一つのことに取り組む覚悟が結果に繋がることを教えてくれました。

初めて参加してから10年が経ちました。パンデミックによる中止もありましたが、30年間のうち6大会でお世話になりました。最終回では皆さまに感謝の思いを伝えることができました。さくら道を知り、参加させていただいたご縁、皆さまとの出会い、お世話になったすべての皆さまに心から感謝いたします。そして、さくら道ランナーとしての自信と誇り、佐藤良二さんの遺志を胸に、人生に役立てていきます。思いやりの心を持ち、多くの人に喜んでいただけるように努力します。さくら道と出会い関わるのができて幸せです。

大会に関わる全ての皆さまに、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

また皆さまとお会いできることを楽しみにしています。

主催者ならび大会関係者の方々、ボランティアスタッフの方々、本当にありがとうございました。そして長い間お疲れ様でした。

今回は、スタートさせていただき本当にありがとうございました。

2019年のリタイヤからもう一度参加したいと思っておりました。

通説通りなかなか選んでいただけず最後の大会と聞き、コロナ禍以降大した記録もないのにエントリーしました。

そうしたらまさかの厚い封筒が届きました。とてもうれしくなりました。

しかし、3月に足を痛めてしまいろくに走れない状態になってしまいました。

悩みました。どう考えてもゴールまで行く力はない。参加するべきではないだろうと。

でも、どうしてもあの場所に居たくて、最後チャンスだとノコノコ名古屋に向かいました。

開会式の会場には懐かしい顔がたくさんいらして、でも自分の状態を考えると後ろめたい気持ちもなり積極的には交流もできませんでした。

ただ、帰ってきたかったところにいるという充実感は非常に感じました。

スタートさせていただくにあたり、運営に迷惑かけないということ心に決めてスタートしました。

第二ウェーブ スタートして自分が走れていないこともあるのですが、110キロにせいか皆さん速い、あっという間においていかれ一人とぼとぼ走ることに

後ろのウェーブの方に声をかけていただきながら、時々数人の団子になったり

20キロも走れないのではないかと思いますでしたが

思ったより調子も悪くなくキロ6分台では走れているので

もしかしたら行けるかもなどと思う瞬間もありましたが

だんだん痛みも増してきて25キロ過ぎたことからキロ7分台に

後ろのランナーもあと5人。

次のエイドまで聞くまでには最終ランナーになってしまうだろう。

それはゴールまで行く力があるならまだしもこの状態では運営のご迷惑になる。

岐阜県にも入っているし第六エイドで終わりにしました。

本当に身勝手な参加で申し訳ございません。

ゴール地点まだ運んでいただき。これも迷惑だなと思いました。

2016年の嵐の大会から参加させていただき

2勝2敗1引き分けやっぱり最後までいけないと悔いがのこります。

無理は承知ですがもう一度リベンジしたいです。出来ればひるがの越えて兼六園まで。

ありがとうございました。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ポツンNo. 78

氏名 平野 茂

2024 年さくら道国際ネイチャーランが終り、既に 1 ヶ月が経過してしまった。今回の回想録、書いては消し、また書いては消し…。いったい幾度書き直したのだろうか。そんな日々を送っていたのだが提出期限の 5 月末の頃になってもまだ纏まらず、今日は 5 月最終日。ついには提出を諦める考えも過ぎってしまったが、ラストラン参加させて頂いた以上、諦めるわけにはいかない。とにかく感謝の気持ちを伝えることがゴールとして書き終えることに努めようと、なりふり構わず書き留めておくことにしたいと思います。

自分にとって“さくら道”は一体なんだったんだろうか。勿論、佐藤良二さんの思いに尽きるのだが、その他に超ウルトラマラソンへの参戦、限界への挑戦、仲間との友好、誇りなど、様々な言葉が浮かんできます。一大イベントである事には違いないですが、いつの間にか 1 年の中心にさくら道が存在していました。普段の生活から 1 日のリズム、睡眠時間や食事、仕事への取り組み方などもさくら道に参加する前とは全く変わっていたことに気づかされました。年齢の事もあるので、走力が落ちないようにと、毎朝のランニングは欠かさぬようにし、スピード練習として 10 km やハーフ、フルの大会などを月に数本。更に月 1 程度は 100 km 練習か 100 km 超えのマラニック、時に 200km や 250km を超える競技にも参加し、常にさくら道を意識した調整などで衰えないようにと続けてきました。その甲斐もあってか、私の手元に 7 枚の完走証 (1 枚は準完走) を得ることが出来ました。一枚一枚に其々の深い思い出も残っています。54 歳で初参加、64 歳で最後となり、コロナさえなければ 10 年 (枚) という節目の記録を残せたのかもしれない。更に 70 歳までと思えば単に枚数をということも描いたこともあり、何処まで何歳まで頑張れたのか分からないが続けられる努力はできたのではないかな、と思っています。

さくらランナーとの出会い、友好は、他に類を見ません。名前を上げたらキリがないので割愛お許し願いながら、またランナーだけでなく、ボランティア方々とも其々の出会い、遠方から幾度も応援に駆け付けてくれた方、貴方・貴女がいなければ完走することなど、とてもとても無理であったと思います。いまでも激の声や当時の様子を思い浮かべさせることは少なくありません。

こうして回想録を書くこと、このような大会への参加・経験ができたことは生涯の宝です。そして何よりも太平洋と日本海をサクラでつなぐことを夢に見、“さくら道国際ネイチャーラン”という他に類のない素晴らしい大会を開催いただきましたことは感謝の念に堪えません。全ての関係者の皆様、本当に本当にありがとうございました。深く深く御礼申し上げます。

2024 さくら道国際ネイチャーラン

～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo.81

氏名 藤田 宣嗣

私がさくら道国際ネイチャーランを知ったのは、同じ町内で走られたラン友さんが居たからです。当時はウルトラは100kmとっており、名古屋城から兼六園迄の250kmって何？？？と言う感じでした。興味と言うか意識をしたのは、走力が私より少し上位(100kmの記録は私の方が速かった?)のラン友さん(完走は出来ず)が出場されたのを見て、自分も走れるのかなあと考えて2013年・2014年と申し込みをしましたが、箸にも棒にも掛から無い(補欠を含めて)落選でした。色々と情報収集していく上で自分の100kmの持ちタイム(11時間～11時間30分)では全く相手にされないんだなと思いました。又、ボランティアとして参加もしていませんでしたので本当に未熟者だったと思い知らされました。

それでもさくら道を走りたいと言う想いは捨て切れず、どうしたら走れるのかと考えて出した結論は萩往還マラニック(250km)に参加して40時間以内にゴールして申し込む事でした。2014年の萩往還マラニック(250km)ではコースアウトも有り40時間8分と目標達成は出来ませんでしたが、憧れのさくら道出場に向けては十分PRになったと同時にこれで当選出来なかったら【縁】が無かったと諦めてさくら道への想いを封印するつもりでした。

迎えた2015年の春『サクラサク』の言葉通り、念願のさくら道国際ネイチャーランに当選して名古屋城のスタート地点に立てるんだと言う実感が込み上げて来る想いと同時に自分が走って良いものかとプレッシャーが襲い掛かって来ましたが、此処でも背中を押してくれたのは藤田会の仲間達でした。

さくら道を走れるんだよ・折角のチャンスだから・応援に行くから。。。と沢山言葉を頂き走る決意をしました。ビギナーズラックも有り、まさかの初出場初完走を果たしました。翌年の2016年は悪天候により結果的には中止となりましたが、私は第4CPの道の駅白川郷で自らコース上から降りていました。

この時の経験(リタイア)が後々のさくら道や他大会に活かされます。

2017年・2018年はボランティアとしてFOROURSの皆さんと大会に携わせて頂き、改めてランナーの皆さんと寄り添う事が出来たと共に、自分自身も再びこの場所に戻って走りたいと感じさせてくれた2年間でした。そして3年の月日を経て2019年に名古屋城のスタート地点に再び立つ事が出来ました。この時は右脚の脹脛痛が有り走り切れるのかと言う不安が有りましたが、西村先生の施術のおかげと絶対自らは終わらせないと言う強い信念を持って無事佐藤桜へ辿り着く事が出来ました。

自分のランニングライフに多大な影響を与えてくれた、さくら道国際ネイチャーランが今年で最後になる事は非常に残念な想いでは有りますが、自身が還暦を迎えて走らせて頂いた事はこの上ない喜びでした。今年で4回目の出場となりましたが、残念ながら佐藤良二さんの顕彰碑を回ってゴール迄辿り着く事は出来ませんでしたが全てのエイドでの給水・給食はかけがえのない最高のサポートでした。

30年と言う長きに渡って大会運営されて来られた大会実行委員会の皆様、ボランティアでお世話になった方々、応援して頂いた方々、一緒に走って頂いたランナーの皆様には感謝しか有りません。本当に大変お世話になり有難う御座いました。

今回が LAST RUN ということもあり距離は 110 キロと短くなりましたが、何とか参加させて頂ければと思い申し込みを致しました。

思えば 2014 年に初出場以来 2015 年と 2 度の完走、2016 年の強風による途中中止の準完走を経て、4 回目は莊川桜リタイヤという過去の結果。翌年以降は肺炎を患ったり貧血治療もあって練習量も不足、当然走力も低下して「もうさくら道を走ることはないだろう」と思い続けていた矢先の今回の LAST RUN 仕事の都合で練習量も月間 200 キロ弱しか出来ていませんでしたが参加する以上は是が非でも完走するぞという強い思いはありました。

スタートは 2 組目の AM5:03 スタートしてからいきなりそのグループの中で最後尾になってしまいました。最初の 5 キロは信号が多くて立ち止まっている時間の方が多く、後方からスタートしたランナーにも次々に抜かれて多少焦りもありましたが、落ち着いて自分のペースを守って走ることに専念しようと思い前へ進みました。No.8 エイド東海学院大学入口では家族が応援にきてくれて大感激でした。この応援を支えに完走という強い意志を強く持ちエイドを後にしました。スタートしてからの 60.1 キロ地点 No.13 エイドみちくさ館までは服部さんとペースを確認しながらの RUN となりました。キロ 7 分程のペースで走ること後半の RUN に余裕が出てきました。No.13 エイド道の駅美並へは 12 時 46 分に到着 脚の痛みも出てきたがまだフィニッシュまで 40 キロ以上あるのでここからはペースを落として進むことにしました。No.17 エイド郡上八幡駅以降は気温も上昇してかなりきつくなってペースもキロ 8 分程に落ちてしまいましたが、エイドでのかぶり水とコーラ、補給食で気持ちを維持 白鳥振興事務所を過ぎてからの故佐藤良治氏顕彰碑までの往復 4 キロは脚の痛みもピークで本当に長く感じましたが皆の声援に感無量でフィニッシュ！

今回の完走は大会を開催してくださったスタッフやボランティアの皆さん、沿道で声援していただいた皆さん、そして本大会参加に向けて協力して頂けた家族の支えがあったからなのです。

このさくら道は自身のランニング人生にとってもかけがえのない財産です。

本当にありがとうございました！！

私がさくら道国際ネイチャーランのことを知ったのは約 20 年前、ちょうど走り始めて RUNNET など大会をいろいろと探しているときで、その時は、すごい大会があるんだなあ、でも書類選考があるのか、きつもの凄いつわものたちだけの大会なんだろうなあ、と思っていました。

そんな私も、いつしかウルトラマラソンにはまってしまい、萩往還 250 km を完踏できるまでになりました。それでもネイチャーランはレベルが違う気がして、応募をためらっていましたが、越田信さんの勧めにより、とりあえず応募してみることにしました。しかし何年も落選が続き、ようやく選考通過した 2022 年は中止と、なかなか走らせてもらえませんでした。が、昨年、初めてネイチャーラン 250km のスタートラインに立つことができました。

走る前は自分には完走は無理だと思っていたので、記念参加のつもりでした。しかし実際走ってみると案外調子良くて、結果は途中リタイアでしたが、準備をしっかりすれば完走は可能だと思いました。そのため、いつかはネイチャーランの 250km を完走したいというのが私の人生の目標になりました。ところが、250 km は昨年在最で今年は 110 km で開催されると聞いて、最初はショックでしたが、未完走の翌年は参加できないと思っていたのに幸運にも 2 年連続で参加できることになりました。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、最後のさくら道国際ネイチャーランのスタート時刻となりました。昨年は大体の走力でのグループ分けになっていたのですが、スタートから同じペースのランナーが多く、安心して走ることができました。しかし今年は走力は関係ないグループ分けで、距離も短いためか最初から飛ばすランナーが多くてつられそうになりましたが、落ち着いてペースダウン。あっという間に同時スタートした中での最後尾グループになってしまいましたが、慌てず騒がず、このペースでいいはずと自分に言い聞かせて走りました。

岐阜県に入ると、徐々に調子も上がってきて快調に飛ばします。気温も上がってきましたが、心頭滅却すれば大丈夫。そして道の駅美並には昨年より 17 分早く到着することができました。しかし、郡上八幡のあたりでエネルギー切れのせいか、実は暑さで体が参っていたせいか、急に元気がなくなります。一時は完走も危ぶまれましたが、エイドでしっかり補給することに努め、最後の最後で復活。無事にネイチャーランを初完走することができました。白鳥での推定タイムは昨年より 1,2 分遅いですが、完走できたので良しとしましょう。

最後に、30 年間この大会の運営に関わってくださったすべての関係者の皆様に、最大級の感謝の言葉を述べたいと思います。

どうも有難う
ございました。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 84

氏名 松下 剛大

私が初めてさくら道ネイチャーランに参加したのは2005年。それから19年間、毎回走ったり応援したりと参加してきました。2008年には妻と出会い、翌2009年には兼六園のゴールでプロポーズし、それからは家族で参加してきました。そんな私の人生を変えてくれたような、私たち家族にとっても大事なネイチャーランが今年で最後とのこと、何としても走らなくてはと思いました。

しかし、大会前の4月に入ってから、左のお尻から腿裏にかけてが痛み出して走るのが難しくなっていました。それでも何とか当日にはゆっくりならば走れる程度にはなったので、今回は110kmのハーフとはいえ完走を目標にして最後のネイチャーランに臨みました。

今年は妻の都合がつかなかったので1人での出走でしたが、長男の翔（かける）が来たいとのことでスタッフのお手伝いをさせてもらうことで参加させてもらいました。彼も10年以上前の1歳の頃から参加しているので、何か思うところがあったのかもしれませんが、途中でも姿が見えて嬉しかったです。

名古屋城をスタートして、市街地は信号で止まったりするので徐々にペースをつかんでいく段階。しかし今年はすでに苦しく、1時間くらい走ったところで早くも痛みが出てきて走るのが難しくなっていました。まだ残りは100km近く…。絶望的になりました。でも、何としても完走はしなくては。片足を引きずって走りながら、何とか走れる走り方を探し、ペースを落としてかろうじて走り続けました。

途中、今回が最後ということで、これまでここではこんなことがあったとか色々思い出しながら走っていました。15回以上走ったこの道には、色々な思い出が詰まっています。今年も懐かしい人たちに会えたことも嬉しかったです。

走る方は、良くはならないものの何とか走り続けられていましたが、美並の辺りから脚も重くなってきて苦しくなってきました。いつもはこの辺りで12時の時報が聞こえてくる…が、今年は12時を過ぎている。スタートも1時間早いので、いつもより1時間以上遅い。でも残りは40数km。完走は見えてきましたが、所々で歩きも入ってきて、制限時間が気になってきました。郡上八幡駅まで走ったり歩いたりすれば、残りは歩いても間に合いそうだとの計算から、まずは郡上八幡駅まで頑張ろうと思いました。

郡上八幡駅からは残り20kmちょっと。まだ走ったり歩いたりに進めるので、次は翔が待つ白鳥に明るいうちに着きたいと思い頑張ることにしました。そして白鳥に入って残り約10km。完走はできそう。ゴール直前の分かれ道のテントに翔がいました。長いこと待たせて申し訳なかった。あとちょっと、顕彰碑まで上ってくるね。そして何とか時間内に完走することができました。翔と2人でゴールさせてもらいました。今までで一番白鳥まで時間をかけたけど、これもまた思い出に残るさくら道になりました。

これでネイチャーランは最後ということですが、家族みんなでさくら道を走るという目標もあるので、このさくら道にはいつかまた走りに来たいと思います。大会スタッフやボランティアの方々には本当に感謝しています。私が走り始めたころから携わってくれている方々は20年近くの長い付き合いになっており、みなさんかなり歳をとってしまいましたが、これからもお元気で、またどこかでお会いしたいと思います。

本当にありがとうございました！

松下 剛大

今年は7回目の参加をさせていただきました。そして今回が大会で走る最後の機会となりました。前回はせっかく皆様のご尽力により再開頂けたというのに、力不足で佐藤桜にタッチすることは叶いませんでした。今度こそ、そして最後だからこそという思いで臨んだラストランとなりました。

自分とさくら道との出会いは、まだ長距離を走ることは無かった30年前に遡ります。一年に一度、桜の咲く時期に地元の富山をひたむきに諦めることなく走り抜けるランナーを不思議な目で見ていました。それから時を経て、とあるきっかけからその背景や歴史に触れ、自分もさくら道の歴史を紡ぐにふさわしい人でありたいと思うようになり頑張ってきました。今回を節目として、ついにこの時がやってきたかと思うにつけ、さまざまな思い出とこれまでの歴史を作り上げてきたすべてにただただ感謝しかありません。これまでのありがとうの気持ちを、そして最後の時間を、これまで尽力いただいたすべての皆さんと一緒に共有したいとの思いでスタートに立ちました。

この大会は自分が知る限り、いつもスタートは穏やかな天候が多く雨に降られたことがあります。いつも佐藤さんが見守ってくれているのだなと思いつつ名古屋城を後にしました。ここ最近では桜の花が散るのが早い年が続きましたが、今年は3月が比較的涼しかったこともあり、白鳥に近づくころには桜を見ることができると期待しながら進みましたが、いつも自分にとっては鬼門となる美並付近では暑くなりはじめ、歩いてしまうことが多くなりました。今回はラストランということもあり最後までつなぐということを最優先に無理せずマイペースで進みました。

それぞれのエイドでは、いつもと変わらぬおもてなしに何とも言えない懐かしさを感じつつ、力をもらって先へとつないでいくうちに涼しくなってきた、桜の花も目に入り始めて白鳥が近くなってきたことを感じるとともに徐々に力が戻ってきました。顕彰碑では、このような素晴らしい道を示してくださったことに感謝しつつ、最後の道のりをかみしめながらゴールへと向かいました。

後日、五箇山に寄る機会があり、自分にとっては2度のストップ地点となり思い入れの深い高千代さんで食事をすることにしました。店内には、馴染み深いエイドポイントの距離表示やさくら道の旗が飾られ誇らしげにしていました。また付近の沿道には、20回記念で植樹された荘川桜の子供たちの大きくなった姿も。さくら道の沿道では、こうして大会が終わってもさくら道の足跡をいつまでも辿ることができるんだと嬉しく思える瞬間でした。

我が家の庭では、2015年に初めてさくら道を走ったあとの閉会式、まだ小さな苗木だったものが大きく成長して今年2度目の花をつけました。植えてから最初の数年は成長が遅いのかな?と心配するほどでしたが、このところはみるみる育ちつつあり、これから毎年美しい花が見られるかと思うと楽しみになってきます。

これまでの道のりを思い出しながら振り返ってみると、改めてさくら道のように人々の心の中に根差した道は貴重な存在なのだと実感させられます。いつかまた桜の花の星座たちがさくら道を彩るころ、佐藤さんの足跡を、そして自分自身も熱い思いをかけて歩んだこのさくら道を、またゆっくりと辿りたいと思っています。

これからも、さくら道の縁でできた人の輪や花の星座たちのつながりを大切にしつつ、自分にできることを一つ一つ続けていこうと思います。本当にありがとうございました。

完走できて良かった。でもとうとう終わってしまったのか、というのが正直な気持ちです。110kmという距離もそれなりに長かったですが、いつもの250kmと比べればやっぱり短い。いつもはゴールが近づくと、「もうちょっとで走り続ける必要がなくなるんだ」という思いを強く感じたものですが、今回は「もう終わってしまうのか」と感じてのゴールでした。

第1回大会からのいろいろな場面を思い出しながら走りました。道路工事で走りにくい道が広がったりきれいになったりして走りやすくなったとか、以前はここにエイドステーションがあったとか、ここでいつも声援してくれる人がいたとか、ここでトイレを使うのは何回目かなとか、この辺りから足にマメができてずっと痛い思いしながら走ったとか、懐かしい思い出ばかりです。第1回目から参加しているとはいうものの、初めての完走は第4回大会での3回目の参加、連続完走達成は16回大会で9回目の参加から、以後12回連続完走、全21回の参加で完走14回、準完走1回、リタイア6回というのが私の全記録です。「完走するだけで価値がある」とは分かっているつもりでも、250kmというのは未知の距離で走ってみなければ何が起ころか分からないことだらけ、若い頃は無謀な走りでリタイアを繰り返し、50代半ばでやっと自制した走りで連続完走ができるようになったと思っています。

30年の間には体調を大きく崩したことも何回もありましたが、なんとか復調しながら今回までの完走につなげてきました。体力の衰えを実感しつつも、70代での250kmの完走を目指していただに、大会自体が終了してしまうのは本当に残念でありませんが、参加者にとって本当に至れり尽せりの運営をしていただき、すべての関係者に心から深く感謝しています。

この大会が開催されるまでは、ひるが野方面のスキーに出掛ける際に利用する道路という認識でしかなかったものが、今の私にとっては掛け替えのない大きな存在となり、郡上八幡、白鳥、荘川桜、白川村、五箇山、福光、金沢が大変身近に感じるようになりました。今後は、このコース沿いに植えられた沢山の桜が美しく咲くころに「花見」のドライブを楽しみ、また新しい目標を探して走り続けます。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LASYT RUN～ 回想録

ゼッケン No. 88 氏名 水谷 正治

昨年初参加で完走できました。

それもひとえにたくさんの人に支えられてできた完走です。

初めてエントリーしてから 8 年越しでの初参加だった昨年はとにかく完走！という思いで走り緊張感でいっぱいでした。

昨年、走り終わって 2024 年も走れるのならばエイドの皆さんに感謝しながら走ろうと心に誓いました。

そしてエントリーが始まりラストランであることそしてハーフの 110 キロになるアナウンスがありました。

長年目標にしてやっと昨年出られた『さくら道』が終わる…

続けて出たいと思っていたので非常にショックでした。

ハーフになって半分以下のエイドでしかお礼を言えないが昨年感じた思いをエイドで伝えるために申し込みさせていただきました。

今年は 110 キロ、100 キロマラソンは年間 2～3 回は走るので問題なくスタートラインにつけば完走できると少し余裕を持っていましたがハーフになってもさくら道は甘くないです。

スタートは 3 組目同組のランナーと交流を深めながら前の組に追いついたり後ろの組に追いつかれたりしながら岐阜のサンドイッチエイドまでスムーズに進みました。

岐阜市内を抜けた辺りから暑さでペースが落ちてきました、それでもエイドに着くと元気をもらって次のエイドに向かえました。

ほんとに各エイドの皆さんには感謝しかありません。

第 1 チェックポイントの道の駅「美並」ではまだ気持ち的にも時間的にも余裕がありあとフル 1 本分くらいだから大丈夫と思っていました。

そこからのまだ緩やかなのぼりでさらにペースが落ちてきました。

今年も西村先生に 2 回もマッサージをしてもらいながらなんとか前に進みます。

暑さのせいなのか胃腸も調子が悪くなりさらにペースダウン、だんだんゴール制限時間に余裕がなくなって 30 分前にはゴールできる予定が顕彰碑からの下りもしっかり走りました。

ほんとにたくさんの方に支えられ最高の大会です。

そして、さくら道に関わる全ての人に「ありがとうございました！」

さくら道国際ネイチャーランが私のマラソン開始の原点となった大会でした。

2006年に名古屋の自宅から金沢の実家まで自分の脚で帰ることはできないか考え、探していると目に留まったのがこの大会でした。

当時フルマラソンさえも走ったこともない距離をどのように走り、選考させて貰えるかと考えたが分からなく、スポーツジムのランニングマシーンでたまたま隣を走っていた方が、ウルトラマラソンを完走していることを聞き、出場できる大会の情報をご教授して頂き、2007年と2008年に100km超のウルトラマラソンを完走、エントリーしたが2回とも落選した。

しかし2010年のハーフに念願が叶い出場が決定。本年を含め9回走らせて頂きました。

その間運営スタッフやボランティアの方々には大変お世話になりました。

昨年の大会で目の不調によりリタイアしたため、選考されないと思いダメ元で応募書類を提出したが、選考されたため走れない人の想いを胸に走ることとなった。

開会式では全国各地で会うウルトラランナーと会うことができ、同窓会のような雰囲気でした。

開会式と特別記念式が終わり、夕食は伏見の一富士でうなぎを食らう。

丸の内のホテルに戻り、就寝。

5月20日AM5:09の第4組スタートでこの日は暑くなる予想で名古屋城を後にした。

行く先々で応援していただき、ラストランで終わる事が感慨深げになりながら、脚を運んでいきました。名古屋～清州～稲沢～一宮と北上していくにつれ段々と暑くなってきた。

木曽川を渡り、岐阜県へ！

木曽川橋を渡った所で大応援団がいて、ようこそ岐阜県のボードを持っている方もおり信号待ちで知り合いに激励を頂いた。

しばらく道なりで信号もまだ多く、ストップ＆ゴーの繰り返し。

岐阜大バイパス下のエイド、岐阜市のCoco壱番屋カレーエイドを過ぎたR156バイパスを渡ると左側に金華山に聳え立つ岐阜城が見えた。このさくら道国際ネイチャーランで岐阜城を見ることはいつも気が付いていなく最初で最後であったが、青い空に新緑と城がマッチした綺麗な城だった。次は東海学院前エイドで、金沢からきたチームメンバーがエイドを手伝っていたため、少し談笑しこのエイドを後にした。暑くなってきたので、氷を貰う。

しばらく走って十六銀行エイドを給水・給食をシッカリとる。

岐阜市から関市に入る坂道で応援され、先を急いだ。

関市に入ると歩道にチョークで書かれた桜の花びら模様が500mほど続いていた。

何年か前に一緒に走っていたランナーにこの先のD工務店と交流があると聞いていたためすぐにこの模様をみて気づいた。

関のローソンエイドに到着。

先ほど東海学院エイドで手伝っていた金沢のランニングチームの人が前のエイドで任務を終えたのでこのエイドでも手伝いに来ていた。ランナーにとっては感謝しかなく頭が下がる。

ここでもそうめんやフルーツをたくさん頂き、エイドを後にする。

美濃市に入り美濃インター下でも三重・岐阜の知り合いがエイドスタッフをしていた。
信号待ちで談笑し次のエイドへ急ぐ。

うだつの上がる町並みで有名な坂に差し掛かると、一人のランナーが蹲っていた。
顔面から血が出ており、声をかけたが意識はある。近くにスタッフがいないか探すとスタッフがいた。
後続のランナーにも手伝ってもらい、手当の応急処置をした。

その後はスタッフにお任せし、現場を後にする。

みちくさ館エイド・道の駅美並エイドでも知り合いがたくさんおり、談笑。

ここから暑くてエイド毎に氷を貰い、掌を冷やすことにした。掌に持っていた袋入りの氷は水になり、
その水を飲みながら次のエイドまでその水で凌ぐことができるため、ウエストポーチに水を持たなくても
走れて荷物にならず結果的に良かった。

道の駅美並を出て更に暑くなって我慢できなくなり、コンビニでアイスを購入。少しは涼を得た。

ここからは岐阜のN氏と並走する区間が増えてくる。

個人宅のエイドでもフルーツ・飲み物・氷を貰い次のエイドへ！

いたち坂エイドでは東京からと石川から来た方がエイドをしており、その前の歩道橋では金沢から来た
ランニングチームの激励を受け、嬉しかった。

郡上八幡駅エイドではN先生がマッサージをしていた。この先生には過去のさくら道では大変お世話に
なり、今大会では何度も大丈夫かと気にかけてくれた。今回はN先生にお世話になることもなく無事ゴ
ールできたことは、今後ほかの大会に向けて一つの段階を上げてくれる存在となった。

mariri エイドを過ぎ、大和町へ！住民の皆さんからの熱い声援が増えてきた。

大和町の八幡信用金庫エイドでも金沢のランニングチームの人が応援してくれて、あと15kmしかない
とエールを頂く。

白鳥交通でも金沢のランニングチームの人が応援してくれ、あと残り7.5kmとなりもうすぐ終わるのか
と目頭が熱くなった。

白鳥町内では折り返しランナーとのすれ違い区間があり、エールを送りながら走る。

今までこのさくら道では、すれ違い区間がなかったので新鮮な気持ちとなった。

最後は劇坂を上り、故佐藤良二さんの顕彰碑前で折り返し。記念撮影を行い、ピンク色の襷を貰い
白鳥振興事務所へ戻っていく、帰りは下りが多く走ることができた。

ゴールは17時22分。13時間13分で有終の美となった。

ゴールでは先にゴールしたランナーの皆さんと歓喜を称え、最終ランナーを見送ったあと車にて
今夜の宿、角忠旅館へ車にて送迎してもらった。

宿では共にこの道を走ったランナー同士でウルトラ談議が尽きない。

走った後も有意義な時間を過ごすことができ、このさくら道でしか関わることのできない時間
であった。

翌日は開会式と記念植樹を白鳥ふれあい創造館にて行った。

まずは記念植樹、いつもの合併記念公園ではなくふれあい創造館だったため新鮮だった。

その後建物内に入り、閉会式と懇談会。

閉会式では2019年から約5年ぶりに重みのあるヒノキで造られた完走証を山川郡上市長からひとり一人手渡しで頂き、またこれが最後の完走証になるのかと感極まった。

また懇談会では日置前郡上市長もお越しになられ、ランナー有志からヒノキの完走証を手渡された。今まで運営して頂いた関係者の方にも花束贈呈や記念品の授与など最後を締めくくる良い閉会式であった。

最後に、この大会に携わったすべてのボランティアや関係者、応援して頂いた皆さんのおかげで、無事完走できたことを感謝します。本当にありがとうございます。

今回でこの大会が一区切りとなり大変残念ですが、また違う形で復活することがある場合は、故佐藤良二さんの「さくら道国際ネイチャーラン」を語っていきたいです。

本当に素晴らしい大会でした。

「ありがとう」だけではなく、『皆さんまたこのさくら道で必ず会う日まで!』

○さくら道国際ネイチャーラン参加記録

開催年		結果	備 考
2010	H22	○	ハーフ143km完走（白鳥町～金沢兼六園）：16時間14分
2011	H23	◎	完走：35時間24分
2012	H24	—	不参加
2013	H25	◎	完走：33時間20分
2014	H26	◎	完走：32時間47分
2015	H27	◎	完走：33時間34分
2016	H28	×	No.28 エイド荘川桜（143km 地点）でリタイア
2017	H29	—	No.45 でエイドスタッフ
2018	H30	—	No.7、No.12、No.19 でエイドスタッフ
2019	H31	◎	完走：30時間23分
2020	R02	—	中止
2021	R03	—	中止
2022	R04	—	中止
2023	R05	×	No.22 エイド道の駅白山文化の里長滝（112.5km 地点）でリタイア
2024	R06	○	ハーフ110km完走（名古屋城～白鳥町）

最期だからこそ。思いをまとめられず2Pになってしまった事をお詫びいたします。

まずは、永くの運営 本当にありがとうございました。

これからも郡上市には「ふるさと納税」という形で応援は続ける所存です。

人生どん底に居た私。たまたま見かけた「さくら道」のランナー達。

その日から超ウルトラマラソンにハマリ、2回の落選を経て

大会に出場して完走する事「だけが」私の走るモチベーションでした。

2023年にフルを完走。2024年の今回は足底筋膜炎で走るのもやっとでしたが
無事に完走できたのは関わってくださいました、皆様のおかげです。

今は「ポツカリ」と心に穴が空いております。さて何の為に走ろうか悩んでおります。

怪我をする前に勢い余ってエントリーしてしまい後悔していた

2週間後の長崎・橘湾岸スーパーマラニック 173 キロでは頂いた帽子を被り完走。

スタッフとして参加されていたレジェンド田処さんに気付いて頂き嬉しかったです。

「さくら道ランナー」の端くれとして走り続けていきたいと思います。

【感謝！感謝！！感謝！！！！】

副委員長：西村先生

前回大会に引き続き何度も治療ありがとうございました。

最後の最後で同じ CBC ラジオの「北野誠のズバリ」リスナーとは思いませんでした。

またラジオネーム「へなちょこランナー」が呼ばれた時は、笑ってください。

「本田よの」さんの息子さん

最期にコソッと帽子を頂いてありがとうございます。

大会や近所のジョギングにも愛用しております。怪我が酷く。精一杯のカラ元気が
ピンクの帽子に桜の造花をデコレーションしている帽子で走る事でしたが

そんな大会を愚弄していると思われるもおかしくない私に声をかけて頂き感謝です。

加藤千代子さん

うちの嫁が顔見知りで、声かけさせてもらって何度もすみません。

家族共々、加藤さんを応援しています。そして敵いませんが私の目標でいてください。

早坂研さん

開会式で「目標は完走」といつてサクッと2連覇しないでください。強すぎ、ひきます。

【残念な事】

フルのコース上にある 38 エイド五箇山のお食事処「高千代」さん
縁あって、北陸に出張によく行くので 2 か月に 1 度は立ち寄りますが
今回は「ハーフ」そして最後の大会という事を大將はご存じありませんでした。
最後に事務局として是非お声かけしてください。寂しそうでしたよ・・・
ランナーの皆さん！美味しいお店なので機会あったらお立ち寄りください。
熊料理もおいしいですが、個人的にはハクビシンが美味です！蕎麦・豆腐田楽もあります。

閉会式の野次？中村儀朋先生のお話が長かったとは言え、あの止め方は
私は理解できませんでしたが、だから大会は最後なんだなあと納得できました。
本だけの情報でしか知らなかった佐藤良二さんの話、番組挿入歌「鏡の国のアンナ」
偉業を歌う地元のフォークグループ「ピペファート」を知れて良かったです。

【世界に認められた大会】

名古屋から金沢まで 36 時間で走る事が佐藤良二さんの足跡、偉業を知る大会であり
郡上に入ると地元の方の応援が熱く「大会が根付いている」事も知る事もできました。
こんな素晴らしい大会を失くす事は郡上市としては間違いなく損失かと思います。
ベテランランナーの方々には釈迦に説法だと思いますが「さくら道」は時間内に完走すれば
ギリシャの「スパルタスロン」の権利を得る事が出来る大会でした。
スパルタスロン2024年 一般エントリー枠 国際レース基準を一部原文のまま抜粋すると
・24 時間レースにおいて、180 km(男性)または 170km(女性)を記録したことがある。
・「さくら道国際ネイチャーラン 250km」において、36 時間以内で完走したことがある。
・「チャレンジ富士五湖ウルトラマラソン・FUJI5LAKES SPARTA(120km)」12 時間以内で完走したことがある。
このリストから「さくら道」が数年後に無くなる事は本当に悲しいのです。

【だからこそ御提案】

後継大会として「24 時間走」の検討は如何でしょうか？
同じエリアを、ただひたすらに周回する大会ならば運営負担も少なく
「郡上の徹夜おどり」をする歴史のある地域だからこそ
新たな名物「郡上の徹夜走り」も検討していただきたいと思っております。
佐藤桜が植えられている「郡上市合併記念公園周回コース」等でも良いかもしれません。
形は変わってしまいますが「郡上から世界へ」の扉を閉じるのは本当に勿体ないです。

最期だから好き勝手に書きました。本当に、本当に寂しいです。
ありがとう「郡上市」そして、さよなら「さくら道国際ネイチャーラン」
ありがとう「佐藤良二さん」、関わってくださいました皆様ありがとうございました。

ありがとう！来年も桜は咲きます。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケンNo. 91 氏名 本木 伸幸

この度は2024 さくら道国際ネイチャーランに参加させて頂きありがとうございました。結果としては、完走できずゴール前での失格でした。私は第一グループでしたのでゴールの時間が19時でしたが、第21エイドに到着したのが18時46分で残り約5キロ、制限時間には間に合わないが、制限時間越えでもゴールにたどり着きたいと先に進むつもりでしたが、スタッフの方に「絶対に間に合わない。車で回収に向かうのも大変だからこれ以上進むのは止めて下さい」とのことで、ゴール到着を諦めました。

私は初参加で実力的に250キロを走破できる走力は持ち合わせていませんが、ハーフならば、と参加申し込みました。当初からゴールは制限ギリギリになると思い、その予定でそれぞれのエイド通過時間に目途をつけていました。

また、止せばいいのにフルのコースでの白鳥より先の山間部区間を意識した装備をして走っていたので、少しでも軽くして体の負担を考慮すべきであった事と、事前に設定した各エイドの通過設定時間が甘かった事、且つこのエイド通過時間を記載した資料を自宅に忘れるというミスもしてしまい、「確かこのくらいに通過すれば大丈夫」「予定通り」との認識で進んでいたのが敗因と思っています。

そして、第19エイドの到着は関門の30分前となり、このままでは自分の走力では間に合わないと思い、一か八か第20エイドまでは全速力で進み（とは言ってもキロ6分を少し切る位ですが）、21エイド着が18時14分。コーラ2杯飲みすぐに出発しますが、あと7、8キロを約40分で走り切るのは無理かも？と思い心が折れ歩いてしまいました。

でも、あわよくば第5出走の方の制限が19時12分なので、タイムオーバーながらもゴールにたどり着ける！と完走からゴールへの到着へと目標を切替えて進みました。

実はもう一つ不安要素があり、コース図の最後のページ、石碑への左折箇所を理解できていなく、歩道橋を渡ったのちどこまで進めばいいのか不安になり途中地図を確認し数分のロスを生じさせ、結果、エイド21より先に進むことができませんでした。

最後の大会、完走者として名前を残す！！との目的が果たせず非常に悔しい限りですが、第19エイドからの100キロ走ってからの全速力で走れた自信、自分のレースプランの反省点を見いだし、またスタッフや沿道の方々の応援、参加された皆さんからの励まし、とても素晴らしい体験をさせて頂きました。

さくら道の大会が再度開催されることがあることを期待しつつ、250キロ走破できるような走力を目指して今度ともトレーニングを続けていく所存です。

最後に、大会関係者の皆様、ありがとうございました。

2024 さくら道国際ネイチャーラン～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 92 氏名 矢上 貴夫

ラストさくら道国際ネイチャーランを走らせていただき私にとって夢のような3日間でした。感謝の気持ちでいっぱいです。

ランニングを始めた12年程前にこのネイチャーランを知り、まさか自分がこの舞台を経験出来るとは思っておりませんでした。と同時に100名の中の一人名として選んで頂けたからには完走しないといけないというプレッシャーも重く感じ、私だけ完走出来なかったらどうしようとも考えることもありましたので必死に練習をしました。私にとっては110kmだから大丈夫とは全く思わず完走するにはどうするかを考え、試走もやり、当日の装備も人のアドバイスにも耳を傾け準備しました。しかし、佐藤良二さんの顕彰碑への往復の激坂だけは計算がなく、いずれにしても制限時間ギリギリの勝負になると思っておりまして通り、13時間58分でのゴールとなりました。

スタートラインに立った時、空を見上げ目をつぶり、この舞台に立てた喜びを感じながら予砲を待ちました。名古屋城にはたくさんの方々が来てくれ、沿道からの声援、岐阜市内の私の会社の前には大勢の同僚も満面の笑みで出迎えてくれて幸せな時間を過ごすことが出来ました。

レースは信号待ちの時間、5km毎の楽しみなエイドもあり、暑さでペースが落ち、佐藤良二さんの顕彰碑往復の時間を考えても余裕なんて全くない、まさにこれで「さくら道国際ネイチャーラン」でした。簡単には完走出来ないとは思いましたが、最後まで諦めない強い気持ちと仲間の励ましでゴール出来ました。

今回ネイチャーランに参加させていただき強く感じたのは、大勢の皆様のご協力の上で成り立っている大会だと思ひましたし、佐藤良二さんの「太平洋と日本海を桜でつなごう」の思いがしっかりと受け継がれている素晴らしいイベントでした。

この「さくら道国際ネイチャーラン」が今回で終わってしまうのは、とても寂しいです。私には名古屋城から兼六園までの250キロを走りたい気持ちがありますが、それが叶わぬ夢となり残念でありませんが、今回、開会式で植樹した桜の木には何回も訪れたいと思います。

最後になりますが大会実行委員会、スタッフ、ボランティア、選手の皆様、ゴールまで応援に来てくれた家族、楽しい思い出をありがとうございました。

私達ランナーのために、大会運営下だった事務局、スタッフ、ボランティアの方々、そして沿道で大きな声援下さった方々、共に走った選手方々にも、この場を借りて、深くお礼申し上げます、ありがとうございました。2019年、2023年に続き、3回目の完踏です！

2019年の平成最後の大会のあと、新型コロナウイルス感染症が席卷し、所謂、コロナ禍を経験し、大会休止を余儀なくされました。2023 さくら道国際ネイチャーランは、ワクチン接種済証が必要でした。しかし、今年の本大会は、『もはやコロナ後ではない』、今後の復興、回復、新しい時代を創造したいと、(勝手に)思い描いていました。しかし、ラストランとなる報を受けた、その衝撃の大なるは今も忘れません。しかも、「ハーフ」で、莊川桜、白川郷や富山、生まれ故郷の金沢に立ち寄れず、兼六園の佐藤桜に訪れることができないと思うと、ショックでした。

さて、太平洋と日本海を「さくらのトンネル」で結ぼうとした佐藤良二さんの夢。その夢を、その遺志を、走り抜けるという形で受け継ぐという本大会の理念を胸に紡いだ、この3日間の振り返り。開会式前のルーチン、名古屋名物、味噌煮込みうどん食し、カーボローディング。名古屋城のお堀をグルッと一周、爽やかな藤棚で目の保養。そして、ワクワクした気持ちを抑え、開会式に乗り込みました。大会当日、ブルーモーメント、深く青い光に包まれた綺麗な群青色の空を眺め、名古屋城正門前を5組最終組でスタート！その場を共有する皆が一つとなり、ラストランの幕開けも盛り上がります！！体は思った以上に良く動き、街中は気持ち良く通過し、徐々に自然が増えてきて、三回目の長良川遡上、これでラストなのだと思うと寂しい気持ちが、湧き上がってきます。途中のエイドは何処も、元気の急速充電ができる充電スタンドのようで、パワーの充電・放出の連続。さあゴールも近づき、終わって欲しくないという気持ちと、早くゴールしたい気持ちの葛藤に駆られながら、佐藤良二さんの顕彰碑に思いを念じ、タッチ。ここに立ち会えた縁と感謝の思いを。元気に笑顔で坂を下り、ゴールへ。ゴール時刻、17:01。11時間49分の楽しい旅が終わりました。宿の前に、かみほの湯でホッこり、最高のリカバリータイムでした。翌日、桜の植樹の後は、閉会式。順位は19位。過去を振り返ると、2019年はゼッケン95番で、95位(共に95で、私は9月5日生まれ)。2023年はゼッケン77番で、22位(共にゾロ目)。今年はゼッケン95番(2019年と同じ)で19位。関連性は??? (すぐには思い浮かびませんが、帰りのバスが名古屋駅手前、河合塾前を通過し気付きました。19歳の9月5日、この名古屋で臥薪嘗胆し、勉強していたことがフラッシュバックし、19に納得)。閉会式・交流会では、このウルトラ世界のレジェンドの方々、そして、この素晴らしい大会を運営下さった方々とお話しでき、とても有意義な時間を経験出来ました。感謝！感謝！！のひと時でした。

このさくら道国際ネイチャーランが(一旦?)長い歴史に幕を閉じることで、大変残念な気持ちと、ここで最後のネイチャーラン、ラストランに関わり、完踏出来た嬉しさが絡み合い、複雑な心境です。また、佐藤良二さんや色々な方々との縁に、心から感謝しています。何かの終わりは、いつも何かの始まり。この大会の閉幕も、私をはじめ、大会に関わられたすべての方々の開幕なのだと、感じました。

ありがとうございました。

私がさくら道国際ネイチャーランを初めて知ったのはこの大会が始まって間もない20数年前と思います。また、名前の由来となった太平洋と日本海を結ぶ266kmの道を桜のトンネルで結ぼうと決意された佐藤良二さんの逸話も同時に知りました。

それ以来、いつかはさくら道を走ってみたいと思うも、なかなか参加認められる実績が伴わず、ずっと敷居が高い大会となっていました。そうこうしているうちに月日が流れるのも早いもので、私も知らぬ間にアラ還のよいお年頃となり、しかもコロナで軒並みランニング大会は中止の状況に。自分自身が思い通りに走れるのもあと数年、長年の夢であったギリシャスパルタスロンを完走し、さくら道ネイチャーランの参加資格を取りさくら道ネイチャーランも完走するという念願を実行しようと一念発起。昨年は一昨年に24年ぶりに参加したスパルタスロンを完走できずに申し込むも予想通りの落選。昨年はスパルタスロンを何とか完走し、今年こそはと思っていた矢先にさくら道がハーフになり、しかも今年で終了するというショッキングなニュース。残念ながら私にとっての最初で最後の『さくら道』は白鳥町までの110kmのハーフとなってしまいました。

しかしながら、大会は前日の開会式、ランナー紹介、オリエンテーションに始まり、当日の朝早いスタートにも関わらず大勢の応援、また途中のエイドではホスピタリティあふれるおもてなしの数々、ゴール後は温泉とランナー数名ごとでの宿泊、翌日には記念植樹と閉会式と交流会と今まで経験したどの大会よりも充実した素晴らしい想像をはるかに超える3日間となりました。過去に参加した友人が口をそろえた様に言う「さくら道はいいよ!」という言葉に納得し、初参加にもかかわらず『さくら道』の魅力を十分に堪能させていただきました。

スタッフの皆様、ボランティアの皆様、一緒に走ったランナーの皆様、お世話になり有難うございました。物語と歴史のある大会はホント素敵ですね。最後の『さくら道国際ネイチャーラン』に参加できたことを誇りに思います。

近いうちに今回走れなかった白鳥町から兼六園の佐藤さくらまでの後半戦を走り私のさくら道を完結したいと思います。

最後にこの素晴らしい大会がいつの日か再開されることを心から祈っております。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ページ No. 98

氏名 吉川宏司

今回、最後となるさくら道国際ネイチャーランに「制限時間いっぱいまで、さくら道を楽しもう」とテーマを決めて参加しました。最近、白鳥通過が14時間ギリギリのこともあり、佐藤さんの顕彰碑往復があるので、完走できる自信はありませんでした。

当日、前半は快調だったものの、60kmあたりから脚が攣り始めました。その後は、塩と水分を意識して多めに取りながら走ったところ80kmあたりから回復してきました。途中は、制限時間内完走は難しいかもと感じましたが、何とか白鳥振興事務所前を45分前に通過することができ、13時間58分でゴールすることができました。最後のさくら道国際ネイチャーランを制限時間いっぱいまで楽しむことができました。

さくら道国際ネイチャーランをきっかけに、多くのランナーと出会うことができました。2008年からの16年間は、さくら道のために走っていたように思います。第15回のハーフで白鳥からスタートしたさくら道をファイナル大会で白鳥で終えることができたのはよかったと思っています。自分の中では、さくら道は特別な大会でした。さくら道国際ネイチャーランが幕を閉じるのは残念ではありますが、これまでありがとうございました。ランナーを支えてくださったスタッフ、ボランティア、応援して下さった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に、ありがとうございました。

最後に、自分のさくら道の記録をまとめてみました。

2008年	17時間06分	第15回記念大会のハーフ	白鳥～兼六園
2009年	33時間26分		
2010年	31時間45分		
2011年	31時間38分		
2012年	32時間36分		
2013年	33時間43分	大雪の年	
2014年	33時間35分		
2015年	32時間17分		
2016年	26時間02分	(準完走) 暴風のため五箇山タクシーのエイドで終了	
2017年	33時間04分		
2018年	いたち坂パークでリタイア		
2023年	35時間06分		
2024年	13時間58分	ファイナル大会	名古屋城～白鳥

さくら道ラストラン ありがとうございました

自分は白鳥小学校～白鳥中学校と白鳥で18年間過ごしました。

白鳥の駅に「太平洋と日本海を桜でつなごう」と白い標柱があったのを見て、夢のような話だなーと思ったのを記憶しています。

まさかさくら道を走るようになるなんて、当時は夢にも思いませんでした。

初さくら道は平成28年の大会でした。

暴風のため大会途中で中止となりましたが、夜通し走り続けたことは初体験で、白川郷まで走った172kmは自分の最長記録となっています。

再チャレンジは令和「初」のさくら道。

気候的には絶好のコンディションで完走率も高い結果となりましたが、足首の痛みから走ることができなくなり、荘川桜の手前でリタイアしてしまいました。

今回のラストランは制限時間を20分オーバーしてしまいましたが、何とかゴールの白鳥まで走りきることができました。

記録には残りませんが記憶に残るラストランとなりました。

さくら道を走ったことで「太平洋と日本海を桜でつなごう」と多くの人がつながっていることを実感できました。

3回の挑戦では金沢の佐藤桜を抱きしめることができませんでしたが、大会を支えていただいたスタッフの方々には感謝の思いでいっぱいです。

本当にありがとうございました。

地元のランナーとしてさくら道を走れたことは誇りに思います。

佐藤さんの出生地「向小駄良」ですが、地元では「こんだら」と呼んでいます。
これからも

思い「こんだら」試練の道を 行くが男のど根性
で走り越えていきたいとします。

2024 さくら道国際ネイチャーラン ～THE LAST RUN～ 回想録

ゼッケン No. 100 氏名 渡辺 正樹

8 大会連続 8 回目。

一度きりの人生でマラソンを好きになったこと、さくら道を知ったこと、
何度も完走できたこと、そして皆さんに出会えたこと。全てが幸せでした。

さくら道を失うのは胸が痛いけれど、新しい宝物を見つける機会を与えられた
と考えることにします。

どこかでお会いしたらまた話をして下さい。しばしさようなら。ありがとう。